

子育て・健康・福祉

【子育て①】

(1) 荒川区の現状

核家族化のより一層の進行や親の就労形態の多様化など、子育て世代を取り巻く環境は、大きく変化している。子育てについて、多くの区民が「喜び」や「人間としての成長」などプラスのイメージを持っている一方で、地域とのつながりの希薄化などにより、子育て中の親が地域で孤立し、子育てに不安や負担を感じている親が多く、身近に子育てを助けてくれる人も得にくい状況もみられる。

さらに、孤立化した親の不安や負担が深刻化することで、児童虐待に発展することもあり、近年、そうした児童虐待に関する相談件数も増えつつある。

こうした状況等を踏まえ、子育て世代が安心して子育てができるよう、地域全体で支援していくことが求められている。

また、青少年についても、特定の友人や趣味などを大切にする一方、自然や地域の人とのふれあいが希薄となっている。自然体験や地域とのふれあいの場や機会の確保が求められている。

[子育て環境の概況]

- 荒川区の合計特殊出生率は、1.08（平成16年）で、東京都平均の1.01は上回っているものの、全国平均は依然下回っている。ここ数年の推移は、ほぼ横ばいとなっている。
- 荒川区の乳幼児（0～6歳）の状況は、0～2歳のうち約3割が保育園等に在籍している。また、3～5歳では保育園等に在籍が約4割、幼稚園在籍が約5割となっている。
- 区内の保育園・幼稚園（平成18年度）は、保育園が26園あり、園児数は2,877人となっている。また、幼稚園は15園あり、園児数は1,413人となっている。
- 区内の学童クラブ（平成18年度）は、23クラブあり、在籍数は1,130人となっており、平成12年度の626人と比べ約8割増加している。

[子育てに関する区民の意識]

- 子どもを持つことへのイメージとしては、「子どもはかわいく、子育てには喜びがある」（61.7%）、「子育てを通じて人間として成長できる」（60.1%）が6割を超えている。
- 子育て中の保護者の不安・負担感の有無では、約55%の人が、子育てに関して不安感や負担感を持つとしている。また、不安や負担に感じる内容では、「子どもに関する犯罪が心配」が65.7%と最も多く、「子育てにお金がかかりすぎる」（45.2%）、「子育てには大きなストレスがある」（38.8%）と続いている。
- 悩みや相談相手としては、「配偶者・パートナー」が81.8%、「その他の親族」が75.1%と多く、また、「隣近所の人、友人・知人」も61.5%となっている。

（以上、「荒川区次世代育成に関するニーズ調査〔平成15年12月実施〕」）

[すべての子育て家庭への支援]

- 区では、平成16年4月に、「子ども家庭支援センター」を開設し、子どもと家庭に関するあらゆる相談に応じ、関係機関と連携しながら、子どもと家庭に関する総合的な支援を行っている。
- 子ども家庭支援センターでの相談・活動実績としては、「家庭・生活環境」に関する相談対応が638件と多く、続いて「各種サービス問合せ」が301件、「虐待関連」が271件と続いている。

[地域の子育て支援体制]

- 子ども家庭支援センターと荒川区社会福祉協議会の共催により、区内で子どもに関わる様々な活動等を行っている団体・機関が一堂に会する「子育て支援ネットワーク関係者連絡会」を開催し、各団体・機関相互間の事業内容の紹介、事業連携の打診、意見交換等を行っている。
- 虐待の防止や早期発見、虐待への円滑な対応がとれるよう、児童相談所、警察、民生委員、児童委員、私立保育園・幼稚園、医師会、区で構成する「児童虐待防止連絡会」を組織し、情報提供及び状況把握を行っている。

[青少年の健全育成]

- 地域における青少年の健全育成を図るため、区内5地域に「青少年対策地区委員会」が設置されており、青少年に関する様々な活動を行っている。
- 地域住民が主体となって、「あいさつ、きまり、思いやり、体験、見守り」をキーワードとする「あらかわの心」推進運動を行っている。

子育て・健康・福祉

【子育て②】

(2) 主な施策の推進状況

[すべての子育て家庭への支援]

- 子育てに関する相談支援機能の充実

子ども家庭支援センターを中心として、身近な場所にある子育て交流サロンや区立・私立保育園において、家庭と子どもに関する相談に来所又は電話により応じている。

- 在宅育児家庭等への支援強化

保育園では、園庭開放、親子での遊びや園の行事への参加の実施による在宅育児支援を行っている。また、子どもを一時的に預けることができる一時保育事業や保護者の疾病や出産等の際に、一定期間宿泊により子どもを預かるショートステイ事業を行っている。

- 児童虐待防止対策の推進

子ども家庭支援センターでは、児童虐待に関し、近親者、近隣住民等や学校、保育園、医院等からセンターへの通報により、迅速に調査・訪問等を行い、緊急に保護する必要があるケースについては、児童相談所に連絡をとり、解決を図っている。

その他のケースにおいては、関係機関と連携しながら、個々のケースについて最善の対応がとれるよう努力している。

- 多様な保育サービスの展開

子育てと仕事を両立する家庭に対して、適切な保育サービスが提供できるよう、認可保育園の開設や定員数の弾力運営などに取り組むとともに、延長保育の実施園を拡大している。その他、認証保育所の整備やきめ細かな保育を受けられる家庭福祉員の増員なども進めている。

また、保護者の入院、出産等の場合に、比較的長期間保育する緊急一時保育や、冠婚葬祭、学校行事参加、心身の休養などの場合に半日単位で保育する一時保育を保育園において実施している。さらに、風邪などの病気の回復期にあるが、保育園等にはまだ登園できない子どもを預かる病後児保育を実施している。

その他、保護者の就労等で放課後等に保護者が不在となる児童に対応するため、学童クラブを拡充し、充実を図っている。

- 幼児教育の充実

各区立幼稚園からの企画提案による特色ある幼児教育の推進や私立幼稚園が行う特色ある教育活動に対する補助など、質の高い幼児教育の実現を目指し、保護者のニーズに対応した魅力的で個性のある幼稚園づくりを進めている。

[地域の子育て支援の推進]

- 保護者が交流できる環境の整備

子育てに関する不安や悩みを解消するため、子育て交流サロン、親子ふれあいひろば等の子育て交流スペースの充実など、子育て中の保護者等が交流できる環境を整備している。

また、地域の中で、お互いに助け合えるよう、子育て交流サロンなどで保護者が出会い、交流することにより、自発的に子育てサークルをつくる機会を側面から支援している。

- 地域で支える子育て支援策の充実

残業時の保育園等への送り迎え、病院への通院、冠婚葬祭など、変則的・変動的な保育需要に対応するため、子どもを預ける利用会員と子どもを預かる協力会員とからなる会員制の組織である、荒川区ファミリーサポートセンターを設置しており、活発に活動している。

[青少年の健全育成]

- 区民による青少年健全育成運動への支援

地域における青少年の健全育成のため、子どもまつりやスポーツ大会などの健全育成事業や非行防止・環境浄化活動などを行う「青少年対策地区委員会」への支援等を行っている。

- 青少年の体験活動

子どもたちが豊かな自然に恵まれた地域の農家にホームステイし、共同生活、農業・漁業体験を通じて、自立心や思いやりの心を育む「自然まるかじり体験塾」を実施している。

子育て・健康・福祉

【健康】

(1) 荒川区の現状

荒川区では、がん・心臓病・脳血管疾患などの生活習慣病に罹る人が多く、平均寿命や壮年期の死亡率の指標からも問題が多い状況である。これは、医療費や介護費の増加ばかりでなく、区民の生活の質という観点からも課題となっている。

そのため、生活習慣病の減少をはじめ、区民が健康的な生活を送ることができるよう、意識啓発や必要な支援を行うことが求められている。

また、新たな感染症や大規模な食中毒の発生など、区民の生命に危害を及ぼすおそれのある事態への備えを強化することも重要である。

【区民の健康状況】

- 平均寿命は、男性 76.0 歳、女性 83.2 歳であり、23 区平均（男性 77.7 歳、女性 84.2 歳）を下回り、いずれも 23 区中 22 位となっている。
- 40～64 歳の死亡率（早世）は、全国平均を 100 とした場合、男性 124.4、女性 107.1 であり、全国平均よりも高くなっている。
- 65 歳の人の健康寿命は、男性 80.5 歳、女性 84.3 歳で、データ入手可能な 11 区中いずれも 9 位である。
- 区における主要死因の割合では、がん・心疾患・脳血管疾患が 3 分の 2 を占めている。
- 朝食をほとんど食べない人の割合は、14.2 パーセントであり、全国平均の 7.7% を上回っている。

【感染症等の発生状況】

- 結核罹患率は、昭和 30 年を境に減少しているが、平成 16 年は人口 10 万対 48.7 であり、都平均（30.2）や国平均（23.3）を上回っている。
- 平成 17 年度における都内の HIV 感染者及びエイズ患者の報告数は、それぞれ 322 人、95 人となっている。
- 新型インフルエンザをはじめとする新興感染症や NBC テロ等による、健康被害が発生する恐れがある。
- 死亡事故の原因となるレジオネラ属菌が、区内の入浴施設等においても検出されている。
- 平成 17 年度の食中毒発生件数は 4 件、患者数は 121 名となっている。（16 年度は 0 件）

(2) 主な施策の推進状況

【区民健康づくりの推進】

- 平成 17 年 10 月、区と区民が力を合わせて生涯健康都市を実現することをうたった荒川区生涯健康都市宣言を行い、区民がいつまでも健康で生き生きと暮らすことが出来る「生涯健康都市」の実現を目指した取り組みを推進している。
- また、区では、健康づくり事業をより戦略的に推進するため、生涯健康都市戦略本部を設置し、18 年 3 月に「健康寿命の 1 年延伸」「早世の 10% 減」を戦略目標に掲げた荒川区生涯健康都市づくり戦略を策定し、施策の推進を図っている。

1 地域ぐるみの健康づくりの推進

健康づくりはじめの一歩事業、健康づくり自主グループ活動支援、健康づくりリーダー育成講座、食と元気の助っ人養成講座、8020 助っ人養成講座、どこでも健康教室・健康相談、健康づくり情報の提供、荒川区健康週間普及啓発事業、あらかわ生涯スポーツフェスティバル など

2 子どもの健康の確保

1 歳児プチ診断、育児相談、重点的・専門的育児支援の強化、育児グループ活動支援、食育の推進、準夜間小児初期救急医療体制の整備
飲酒・喫煙・薬物乱用防止教室、小児感染症の予防 など

3 働き盛りの健康増進

歯周疾患検診、禁煙チャレンジ応援プラン、輝くママのすこやか講座、あらかわ満点メニューの開発、健康づくり共同調査 など

4 介護予防の推進（福祉分野）

5 健康づくりを支援する環境整備

健康増進計画の策定、健康応援店の拡充、ウォーキング道路の整備、分煙化のための環境づくり、区施設における受動喫煙防止対策の推進、親と子による“たばこゼロ”アピール、たばこの煙イエローカード推進事業、保健所システムの再構築 など

【感染症予防の推進】

- 依然として罹患率の高い結核への対策を重点的に実施している。
- エイズに対する正しい知識の普及、まん延の防止を図るため、無料抗体検査・電話・来所相談等を実施している。
- 新型インフルエンザ等の発生を想定したシミュレーションを行うなど、健康危機管理体制の整備を進めている。

【健康を守る生活環境の整備】

- 環境設備に関連する感染症への対応として、公衆浴場、プール、高齢者施設等に対し、一斉立入検査、水質検査、個別指導等を実施している。
- 食の安全・安心対策として、大規模食中毒対策訓練や夏季・歳末における一斉監視指導、食品衛生講習会、食中毒予防の普及啓発事業等を実施している。

子育て・健康・福祉

【福祉①】

(1) 荒川区の現状

○高齢者福祉

荒川区における高齢化率は20%を超え、高齢者人口も40,000人に達し、全区民の5人に1人が65歳以上の高齢者となっている。また、要介護等高齢者も年々増加しており、区内全体で約6,900人が要介護認定等を受け、在宅や施設などで介護サービスを利用している。

介護や支援を必要としない「元気高齢者」は、高齢者の8割強を占めている。

平成27年には、団塊の世代が65歳以上となり、高齢者の伸びがピークに達し、生活様式や価値観はさらに多様化することが見込まれており、10年後の高齢者を見据えた高齢期の社会参加と生活づくりの支援が求められている。

[高齢者の状況]

- 65歳以上人口は、40,221人で、高齢化率は21.0%となっており、年々上昇し、全国、東京都区部を大きく上回るスピードで高齢化が進行している。(平成18年4月1日現在)
- 要介護等高齢者(要介護等認定者)数は、平成18年4月1日現在、6,889人であり、年々増加している。また、平成13年(3,941人)から7割強の増加となっている。
- ひとり暮らし高齢者数は、平成18年4月1日現在2,131人となっている。

[介護予防]

- 病気予防、健康維持のために必要なこととして、「自分や家族の生活習慣の改善や健康づくりについて関心を持つこと」(55.1%)が最も多く、以下、「住みよい住宅や住環境であること」(34.5%)、「経済的な余裕を持つこと」(32.6%)となっている。
- この1年間で転倒した経験の有無では、「ある」という人が22.5%を占めている。
(以上、平成17年11月実施「高齢者生活状況調査」)
- 介護予防について効果的なものとしては、「趣味活動」(50.1%)が最も多く、「ウォーキング」(48.7%)、「高齢者向けの体操」(43.4%)となっている。
(第29回区政世論調査(平成16年実施))

[社会参加]

- 現在、生きがいを感じていることとしては、「働くこと(自営・家事等を含む)」(35.7%)と「ご近所と友達とのつきあい」(34.7%)が特に多くなっている。
- 区内には、補助的・短期的な就業機会の開拓・提供を行う「シルバー人材センター」があり、会員数は、平成17年度で1,342人となっている。また、会員数は、増加傾向である。

[要介護者等への支援]

- 地域における、総合的な相談窓口機能、介護予防ケアマネジメント等の支援を行う「地域包括支援センター」が区内5地域に設置されている。
- 区内の介護保険施設は、介護老人福祉施設は5か所(348床)、介護老人保健施設3か所(310床)、介護療養型医療施設(療養病床等)5か所(178床)となっている。
- その他、通所施設が30か所、認知症高齢者グループホームが3か所となっている。

○障害者福祉

区の障害者(児)人口(手帳所持者)は、約7,700人となっており、年々増加している。また、介助者が高齢化しており、親亡きあとの問題も切実となっている。

障害者に関する制度も大きく転換している。平成15年に支援費制度が施行され、「措置」から「契約」に変わり、平成18年度には障害の種別ごとに分かれていた制度を一元化した「障害者自立支援法」が施行された。

こうした状況のなか、障害者が住み慣れた地域で、その能力や適性を十分に発揮し、いきいきとして自立した生活ができるよう、ノーマライゼーションの理念のもと、障害のある人が必要とするサービスを利用できるよう支援するとともに、就労や社会参加の促進を図っていくことが求められている。

また、高齢者や障害者をはじめ、区民の誰もが住み慣れた地域で、安心して暮らしていけるよう、段差の解消やエレベータ等の設置など、バリアフリーのまちづくりが必要である。

[障害者の状況]

- 区の障害者数は、7,730人で(平成18年3月末現在)、内訳は、身体障害者6,197人、知的障害者817人、精神障害者716人となっている。
- 障害者数は、年々増加している状況であり、平成13年度(6,413人)に比べ、約2割増加している。
- 障害者のうち、18歳未満の障害児の状況は、319人で(平成18年3月末現在)、内訳は身体障害児136人、知的障害者183人となっている。障害児数は年々増加しており、13年度(227人)に比べ、約4割増加している。

子育て・健康・福祉

【福祉②】

(1) 荒川区の現状	(2) 主な施策の推進状況
<ul style="list-style-type: none"> 障害者の介助者の状況をみると、主な介助者は、知的障害者、精神障害者では「母親」が最も多く、それぞれ 71.1%、46.2%で、身体障害者では「配偶者」が 50.7%で半数を超えている。 介助者の年齢では、知的障害者、精神障害者、身体障害者ともに 60 歳代が最も多く、60 歳以上でみると、知的障害者で 37.4%、精神障害者で 58.5%、身体障害者で 53.5% となっており、介助者の高齢化が見られる。(以上「障害者等実態調査」(平成 17 年 3 月)) <p>[障害者の自立生活の支援]</p> <ul style="list-style-type: none"> 区内には、障害者が自立した生活を送ることができるよう、障害者通所施設が 13 か所ある。また、住み慣れた地域での生活を送れるよう支援する障害者グループホームは、9 か所整備されている。 精神障害者の社会復帰や自立、社会参加の促進するため生活支援、生活相談、地域交流を行う「精神障害者地域生活支援センター（アゼリア）」がある。 <p>[就労と社会参加]</p> <ul style="list-style-type: none"> 障害者の就労状況をみると、知的障害者で 4 割（40.9%）、精神障害者、身体障害者ともに約 2 割（それぞれ 19.9%、20.5%）となっている。（「障害者等実態調査」(平成 17 年 3 月)） 区では、障害者就労の機会を広め、安心して働き続けられるように、専任のコーディネーターが、本人や家族、企業からの相談を受け、就労を支援する「じよぶ あらかわ」を平成 15 年 12 月に設置した。登録者数は、平成 17 年度では 128 人であり、33 人が就労している。 区内には、障害者やボランティアの自主的活動の場として、また、幅広く区民との交流を深める場として「障害者福祉会館（アクロスあらかわ）」が設置されており、平成 17 年度の利用件数は 4,678 件となっている。 <p>[バリアフリー化の推進]</p> <ul style="list-style-type: none"> 交通バリアフリー法に基づき、鉄道事業者が行う駅のエレベータ設置等事業に補助を行っている。これまで京成町屋駅、新三河島駅に設置補助を行っている。 歩行者や自転車の安全な通行を確保するため、日暮里中央通りとあやめ通りを「あんしん歩行エリア」に指定して、面的かつ総合的に事故抑制及びバリアフリー対策を実施している。 「日暮里駅周辺地区交通バリアフリー基本構想」を策定し、各事業者等と協議会の中で、バリアフリー化の重点的・一体的な推進を図っている。(平成 22 年度完了予定) 	<p>○高齢者福祉</p> <p>[介護予防の推進]</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校給食を活用した高齢者会食サービス（おたっしゃランチ）の実施 特定高齢者を対象に、バランスのとれた食事（給食）の提供による高齢者の健康維持をはじめ、外出機会確保による閉じこもり予防、孤独感の解消や高齢者と児童の異世代交流の実現を目的に行っている。 高齢者施設を活用した高齢者会食サービスの実施 健康寿命の延伸を目的として、特定高齢者を対象に、栄養バランスや高齢者の咀嚼能力に配慮した食事の提供や健康運動指導士による体操指導など質の高いサービスを実施する 荒川ころばん体操の実施 元気高齢者と要支援の高齢者を対象に、転倒による骨折を予防するための筋力、バランス、歩行能力の向上を図るため、ひろば館やふれあい館等の会場で行っている。 荒川せらばん体操の実施 虚弱な高齢者を対象に、身体機能の改善、要介護状態の軽減や予防、生活の質の向上を図るため、ラバー製の帯（セラバンド）を活用した体操を行っている。 健康推進リーダーの養成 地域の体操教室の自主的活動を活性化し、地域ぐるみで介護予防に取り組む土壌を醸成するため、荒川ころばん体操・せらばん体操、ふれあい健康教室、おたっしゃランチのリーダー養成講座及びフォロー講座を行っている。 各種予防教室等の実施 低栄養予防教室、口腔保健教室、尿失禁予防教室・予防講演会、認知症予防教室・予防講演会等のほか、平成 18 年度は、より多くの高齢者に介護予防の取り組みを広く普及するため、「4万人の筋力アップ大作戦事業」として、介護予防シンポジウムや転倒予防サミット等の実施を予定している。

子育て・健康・福祉

【福祉③】

(2) 主な施策の推進状況

[高齢者の社会参加の促進]

- **老人福祉センターにおける各種事業の実施**
文化教養講座、講演会など各種講座を開催するとともに、各種サークル活動の場の提供を行っている。
- **高年者クラブへの支援**
高齢者の自主的組織である高年者クラブは、レクリエーション、スポーツ、交流事業、奉仕活動、環境美化活動などさまざまな活動を行っており、区としても積極的な支援を行っている。
- **高齢者の生涯学習への支援**
高齢者の生涯学習に対する多様なニーズに応えるため、高齢者を対象とした文化教養活動を行うシルバー大学に対する支援を行っている。
- **高齢者の社会参加しくみづくり事業等の実施**
地域との関わりが希薄なサラリーマン等が定年退職後の社会活動を自ら企画立案して積極的な社会参加が実現できるよう、様々な講座を実施している。また、区が行っている介護予防事業や健康づくり事業への参加等を勧奨している。
- **シルバー人材センターへの支援**
健康で働く意欲のある高齢者の就業の場を確保するため、シルバー人材センターに対する支援を行っている。

[要介護者等への支援]

- **要介護者等へのサービスの充実**
介護保険法の改正や高齢者を取り巻く状況を踏まえ、平成18年3月に第3期高齢者プランを策定し、介護保険事業においても一層の充実に取り組んでいる。住み慣れた地域で暮らしつづけられるよう、在宅介護サービスの充実を図り、自らの能力を最大限に発揮し自立した生活が送られ続けるよう環境の整備を推進するとともに、在宅介護が困難な人に対応するため、施設介護サービスの充実を図っている。
- **支えあい見守りあいネットワーク事業の実施**
見守りを希望するひとり暮らし高齢者等の名簿を作成し、区内の町会、民生委員、警察署、消防署等に提供し、見守り支えあい活動を実施している。
- **高齢者虐待対策事業の実施**
高齢者への虐待を防止するため、区民向けの啓発活動や関係機関によるネットワークづくり、弁護士等による専門相談を実施するとともに、医療等が必要な虐待を受けている高齢者を緊急に保護できる体制を整備する。

○障害者福祉

[障害者の自立した生活の支援]

- **障害者通所施設の整備**
一般就労が困難な障害者が自立した生活を送ることができるよう、障害の種別や程度等を踏まえ、必要な通所施設を整備するとともに、開設運営支援を行う。
- **障害者グループホームの開設・運営支援**
障害者が住み慣れた地域で生活が続けられるよう民間グループホームの開設運営支援を行う。
- **障害児タイムケア事業**
障害のある中高生等が養護学校等の下校後に活動する場所を確保し、障害者の親の就労支援や日常的にケアする家族の負担の軽減を図る。(平成19年1月開始予定)
- **障害児移動介護事業**
障害のある児童・生徒が養護学校等に通学する際に、ガイドヘルパーによる移動介護を実施する。(平成18年6月実施予定)

[障害者の就労と社会参加の促進]

- **障害者雇用支援事業**
障害者を雇用する企業が障害者雇用において必要な職場整備等を行う環境整備費の一部を補助する。また、特例子会社の誘致に向けた取り組みも行っている。
- **小規模通所授産施設等に対する就労促進**
小規模通所授産施設等において、通所者の一般就労に向けての訓練・作業等のため、専門指導員の配置や施設整備に対し費用の一部を補助する。
- **障害者就労支援事業（就労支援センターじょぶあらかわ）**
就労を希望する障害者に対して、就労面・生活面で支援し、一般就労を促進する。
- **精神障害者地域生活支援事業**
地域での生活する精神障害者の日常生活支援、日常的な相談（夜間・休日）を行い、精神障害者の社会復帰と自立、社会参加を促進する。

[バリアフリー化の推進]

- **鉄道駅エレベータ等整備支援事業**
平成18年度は、JR西日暮里駅へのエレベータ整備に対する補助を行う。
- **あんしん歩行エリア整備事業**
日暮里中央通り、あやめ通りを指定し、現在、整備工事を実施している。

子育て・健康・福祉

(3) 区政改革懇談会の主な意見

○真紅グループ

- ・ 共存（ノーマライゼーション）意識が高い支え合いのまち（福祉・子育て・教育）
 - ・ 障がい者や高齢者をはじめ、だれもがいきいきと暮らせる地域社会づくり
 - ・ 子どもと高齢者など、多様な交流を促進する場づくり
 - ・ 再開発で人口増加が予想される中での子育てや教育環境の充実

○瑠璃グループ

- ・ 生（イキ）「人の心に触れて生活する」

○紫苑グループ

- ・ 高齢者が元気になるまちづくり（高齢者の社会参加の促進）

○茜グループ

- ・ 子どもを育てやすいまち（子育て分野）
- ・ 憧れる暮らし方のモデルを発信するまち（コミュニティ・生涯学習・福祉分野）

○萌黄グループ

- ・ 子どもを育てやすいまちづくり
 - ・ 経済的支援策の充実
 - ・ 働きやすく安心して子育てができる環境づくり

○山吹グループ

- ・ 障がいの有無に関わらず、すべての区民が安心して暮らせるまち（障がい者福祉）
- ・ 魅力的で厳格な学校授業が行われ、健全な青少年が育つまち（教育・青少年の健全育成）

(4) 検討テーマ

◇区の子育て・健康・福祉の将来像について

【主なキーポイント】

- 子育て
 - ・ 多様なニーズに対応した子育てができるまち
- 健康
 - ・ 区民一人ひとりが生涯を通じて健康に暮らせるまち
- 福祉
 - ・ 高齢者や障害者が安心と生きがいを実感できるまち

◇将来像の実現に向けた取組について

【主なキーポイント】

- 子育て
 - ・ 地域で支える子育て支援
 - ・ 在宅育児家庭などすべての子育て家庭への支援
 - ・ 仕事と子育ての両立支援
 - ・ 青少年の健全育成
- 健康
 - ・ 地域ぐるみの健康づくり
 - ・ 子どもの健康確保
 - ・ 働き盛りの健康増進
 - ・ 健康づくりを支援する環境整備
- 福祉
 - ・ 高齢者・障害者の就労・社会参加の促進
 - ・ 高齢者・障害者の自立した生活の支援
 - ・ ノーマライゼーションの理念の普及
 - ・ 介護予防の推進

関連資料

1. 子育て

区の合計特殊出生率の推移	1
区における乳幼児の状況	2
保育園・幼稚園の園児数の推移	3
学童クラブの在籍数の推移	4
次世代育成に関するニーズ調査結果	
子どもを持つことのイメージ	5
不安・負担感の有無	6
不安・負担感に感じる内容	6
悩みや不安の相談相手	7
子ども家庭支援センターの概要	8
青少年対策地区委員会の概要	9

2. 健康

平均寿命の23区比較	10
早世の状況	11
主要死因の割合	12
三大死因の標準化死亡比	13
基本健康診査受診者数の推移	14
乳幼児健康診査受診者数の推移	14
がん検診受診者数の推移	15
朝食欠食の状況	15
結核罹患率の推移	16
食中毒発生件数	16

3. 福祉

■高齢者福祉

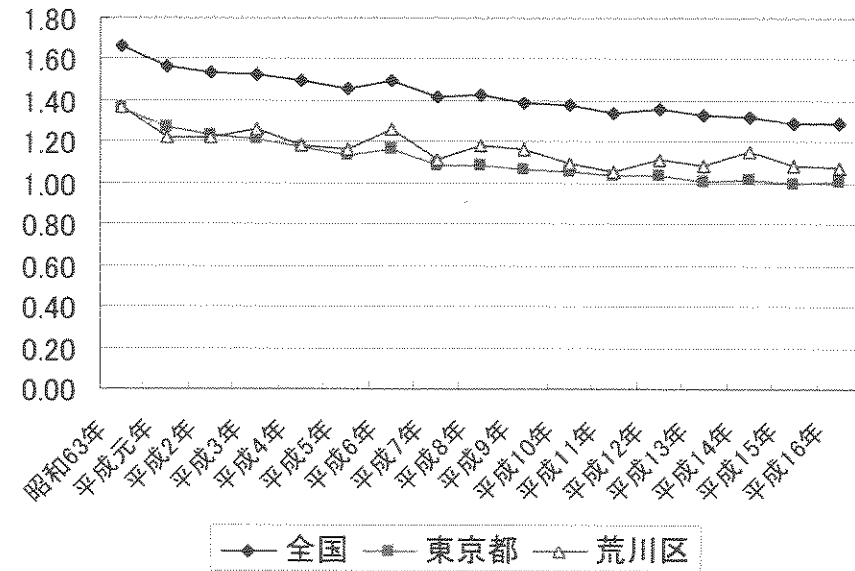
高齢者人口等の状況	17
要介護認定者数の推移	18
ひとり暮らしの高齢者数の推移	18
高齢者生活状況調査結果	
病気予防、健康維持のために必要なこと	19
この1年間の転倒経験の有無	19
生きがいを感じていること	20
区政世論調査結果	
介護予防について効果的なもの	20
荒川区シルバー人材センターの事業実績	21

■障害者福祉

障害者数・障害児数の推移	22
障害者等実態調査結果	
主な介助者	23
介助者の年齢	24
就労状況	26
精神障害者地域生活支援センターの概要	27
障害者就労支援事業(じょぶあらかわ)の概要	28
障害者福祉会館(アクロスあらかわ)の概要	29
障害者通所施設・グループホーム一覧	30

1 子育て

●区の合計特殊出生率の推移



年度	全国	東京都	荒川区
昭和63年	1.66	1.36	1.37
平成元年	1.57	1.27	1.22
平成2年	1.54	1.23	1.22
平成3年	1.53	1.21	1.26
平成4年	1.50	1.17	1.18
平成5年	1.46	1.13	1.16
平成6年	1.50	1.16	1.26
平成7年	1.42	1.09	1.12
平成8年	1.43	1.09	1.18
平成9年	1.39	1.07	1.16
平成10年	1.38	1.06	1.10
平成11年	1.34	1.04	1.06
平成12年	1.36	1.04	1.12
平成13年	1.33	1.01	1.09
平成14年	1.32	1.02	1.15
平成15年	1.29	1.00	1.09
平成16年	1.29	1.01	1.08

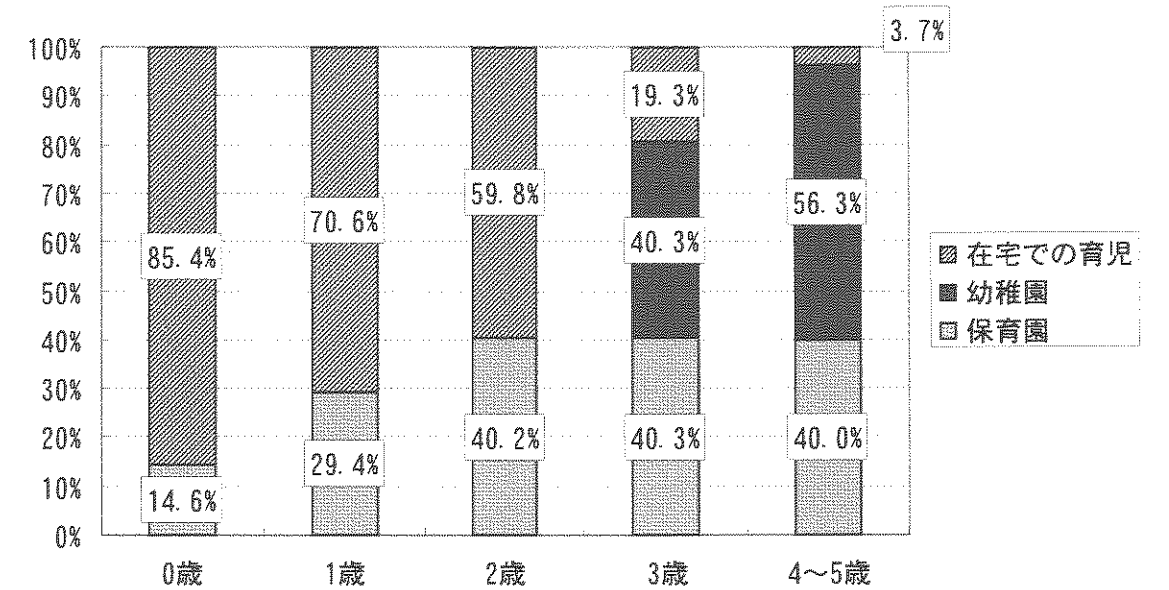
出典：東京都衛生年報（平成16年は概数）

合計特殊出生率は、全国、都、区とも経年的にみて減少傾向にある。また、平成16年の荒川区の合計特殊出生率は1.08と東京都の1.01よりも高く、全国平均の1.29よりも低くなっている。

●区における乳幼児の状況（平成17年5月1日現在）

単位：人

	0歳	1歳	2歳	0~2歳	3歳	4~5歳	3~5歳	計
A 人口	1,395	1,454	1,474	4,323	1,445	2,838	4,283	8,606
B 保育園在籍数	173	379	533	1,085	574	1,128	1,702	2,787
認証保育所在籍数	16	41	45	102	9	6	15	117
家庭福祉員保育数	14	8	15	37	—	—	—	37
計	203	428	593	1,224	583	1,134	1,717	2,941
保育園に在籍する割合	14.6%	29.4%	40.2%	28.3%	40.3%	40.0%	40.1%	34.2%
C 区立幼稚園在籍数	—	—	—	—	45	478	523	523
私立幼稚園等在籍数	—	—	—	—	538	1,121	1,659	1,659
計	—	—	—	—	583	1,599	2,182	2,182
幼稚園に在籍する割合	—	—	—	—	40.3%	56.3%	50.9%	25.4%
D 家庭での育児数=A-B-C	1,192	1,026	881	3,099	279	105	384	3,483
家庭で育児している割合	85.4%	70.6%	59.8%	71.7%	19.3%	3.7%	9.0%	40.5%



出典：荒川区子育て支援部計画課資料

0~2歳児においては、在宅での育児は71.7%を占めるが、3~5歳児においては9.0%まで下がるとともに、保育園が約40%、幼稚園が約51%を占めている。

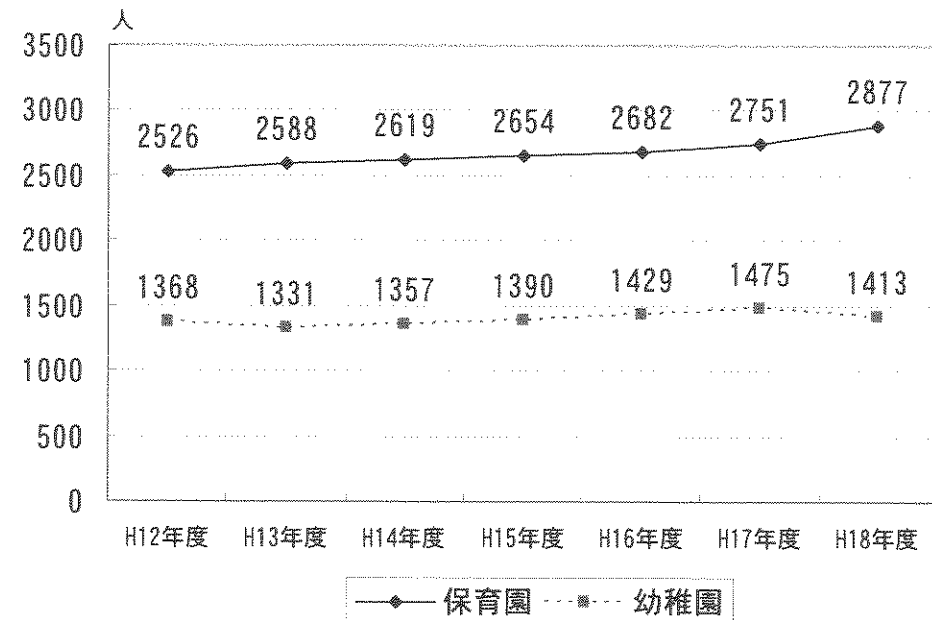
1-2 子育て

●保育園・幼稚園の園児数の推移

単位：人

	H12年度		H13年度		H14年度		H15年度		H16年度		H17年度		H18年度		
	園数	園児数	園数	園児数	園数	園児数	園数	園児数	園数	園児数	園数	園児数	園数	園児数	
保育園	28	2,526	28	2,588	27	2,619	27	2,654	26	2,682	26	2,751	26	2,877	
【内訳】	公立	15	1,362	15	1,399	15	1,427	15	1,439	15	1,456	15	1,434	15	1,458
	公設民営	5	344	5	407	5	421	5	450	5	521	5	580	5	589
	私立	8	820	8	782	7	771	7	765	6	705	6	737	6	830
幼稚園	15	1,368	15	1,331	15	1,357	15	1,390	15	1,429	15	1,475	15	1,413	
【内訳】	区立	8	464	8	462	8	481	8	462	8	468	8	523	8	490
	私立	7	904	7	869	7	876	7	928	7	961	7	952	7	923

※保育園の数値は各年4月1日、幼稚園は各年5月1日現在。



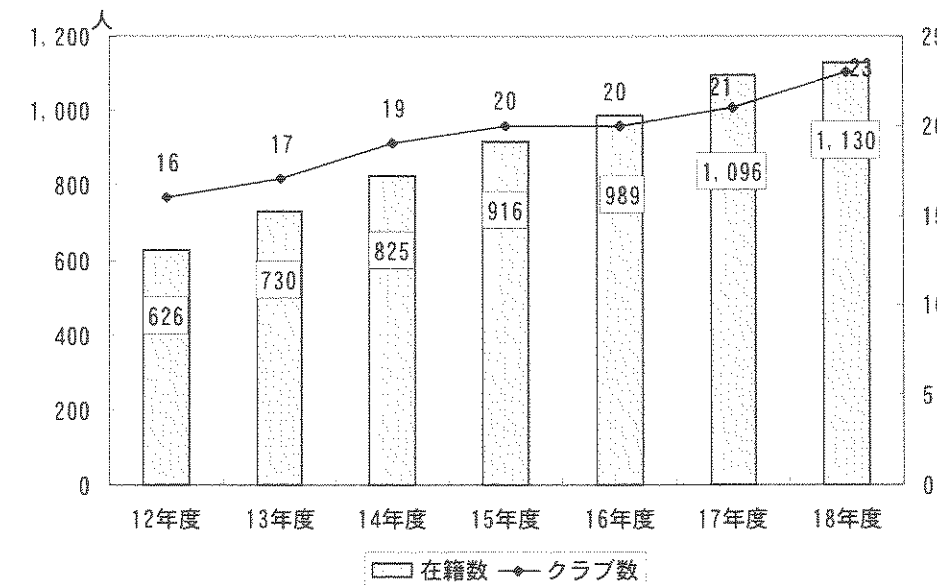
出典：荒川区子育て支援部計画課・教育委員会事務局学務課資料

保育園の園児数は、平成12年度以降一貫して増加している。幼稚園の園児数は、平成17年度から18年度にかけてやや減少したものの、ここ数年増加傾向にある。

●学童クラブの在籍数の推移

(単位：人、各年4月1日現在)

	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度
クラブ数	16	17	19	20	20	21	23
南千住	43	53	56	69	68	81	75
第二南千住	16	22	28	35	35	33	-
南千住四丁目	62	36	34	39	45	62	40
汐入	-	25	52	68	85	113	110
二瑞小	-	-	-	-	-	-	38
花の木	67	84	65	51	49	58	38
荒川三丁目	37	42	49	51	61	43	51
赤土小	-	-	34	49	56	54	57
二峡小	-	-	-	26	29	47	48
三峡小	-	-	-	-	-	24	27
九峡小	-	-	-	-	-	-	20
町屋	68	80	52	57	35	45	55
五峡小	33	38	41	39	51	56	58
大門小	35	45	53	55	57	66	68
七峡小	-	-	22	35	49	55	53
尾久	34	38	43	59	51	44	34
熊野前	47	35	38	42	48	46	48
西尾久	-	-	-	-	-	41	53
上尾久	17	31	41	34	34	-	-
尾久西小	50	58	61	64	57	50	60
東日暮里	25	27	36	31	42	31	29
西日暮里	25	33	29	22	31	36	37
西日暮里二丁目	41	42	49	47	59	53	47
東日暮里三丁目	26	41	42	43	47	58	56
二日小	-	-	-	-	-	-	28
合計	626	730	825	916	989	1,096	1,130

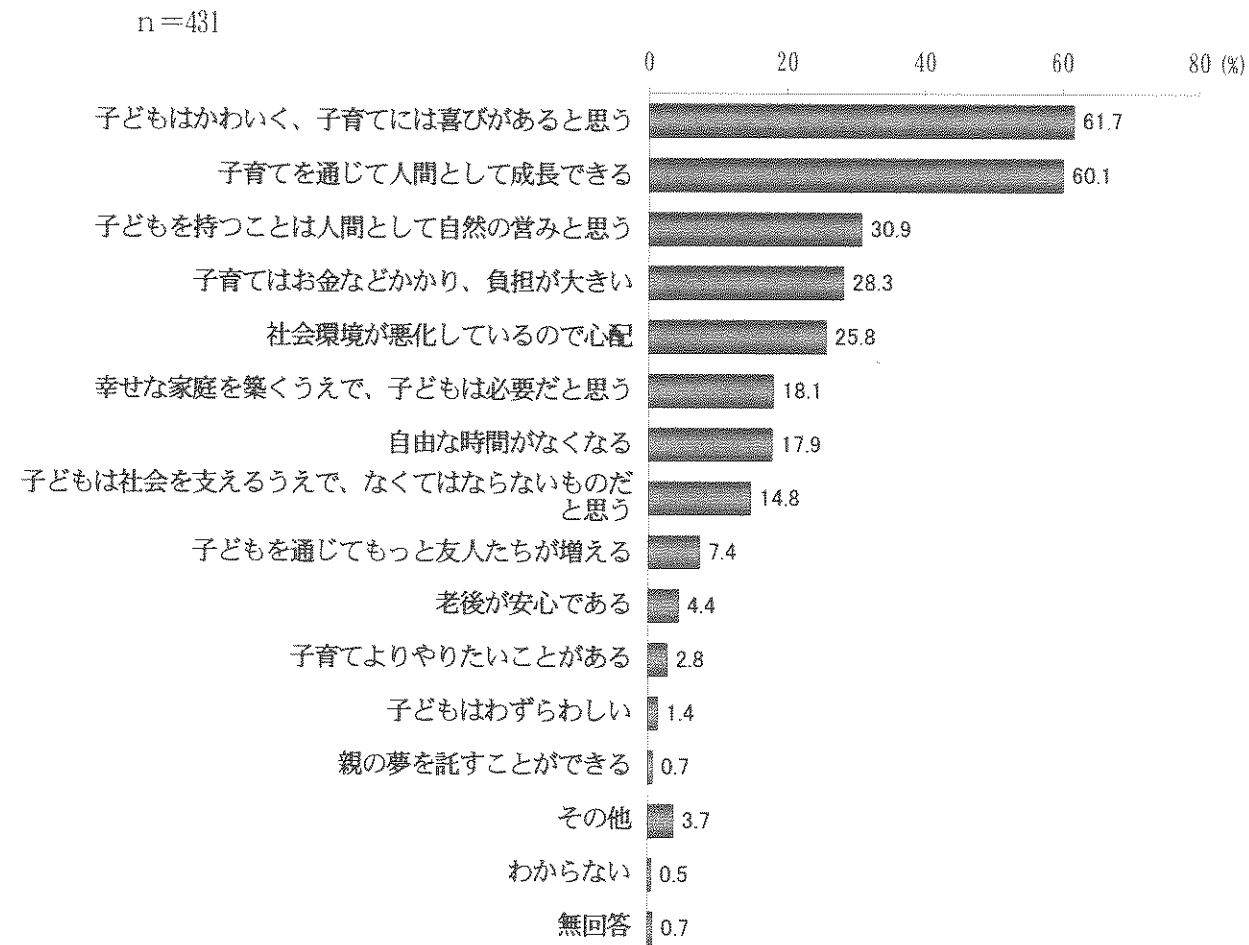


出典：荒川区区民生活部地域振興課資料

学童クラブ数、学童クラブ在籍数ともに、年々増えてきている。

1-3 子育て

●次世代育成に関するニーズ調査 【子どもを持つことのイメージ】

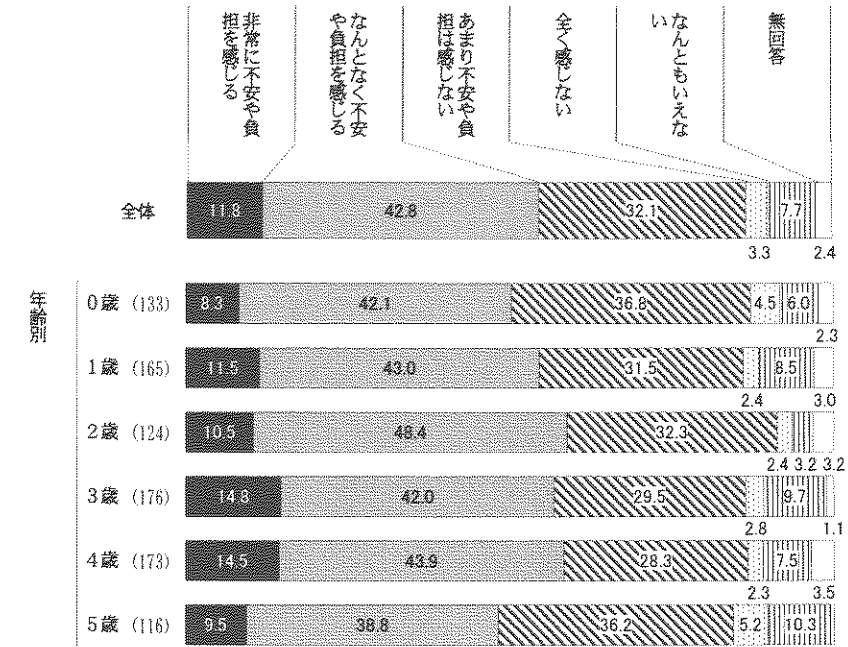


出典：荒川区次世代育成に関するニーズ調査（平成 15 年 12 月実施）

子どもを持つことのイメージとして、「子どもはかわいく、子育てには喜びがあると思う」(61.7%)、「子育てを通じて人間として成長できる」(60.1%)、が特に高くなっている。

【不安や負担感の有無】

n=892

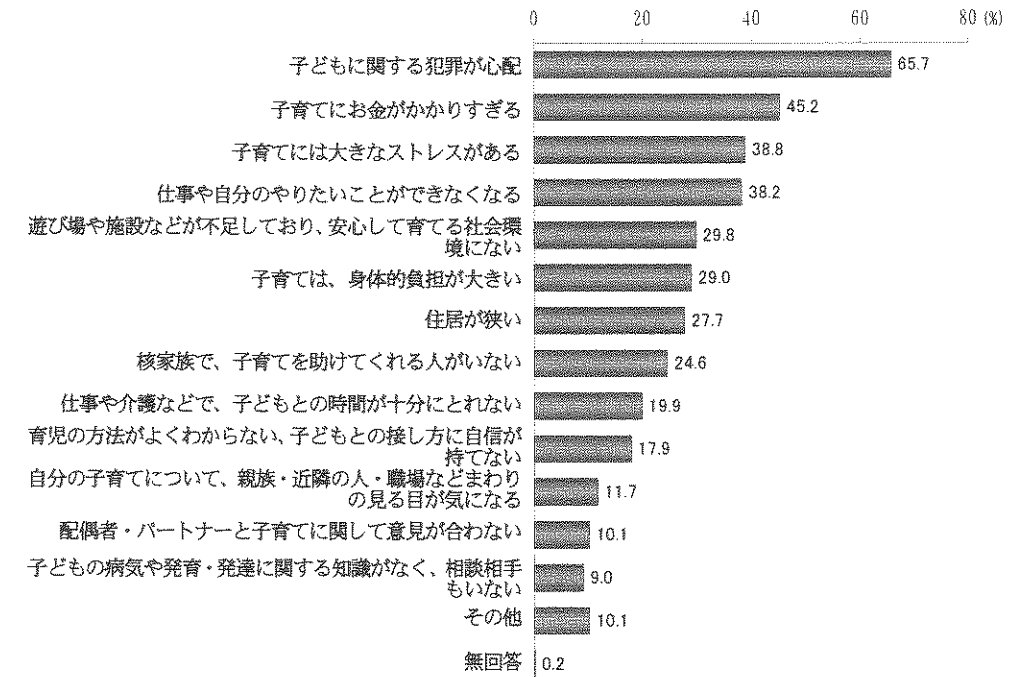


出典：荒川区次世代育成に関するニーズ調査（平成 15 年 12 月実施）

子育てについて「非常に不安や負担を感じる」「なんとなく不安や負担を感じる」を合わせると、54.6%と過半数を占める。

【不安や負担を感じる内容】

n=487



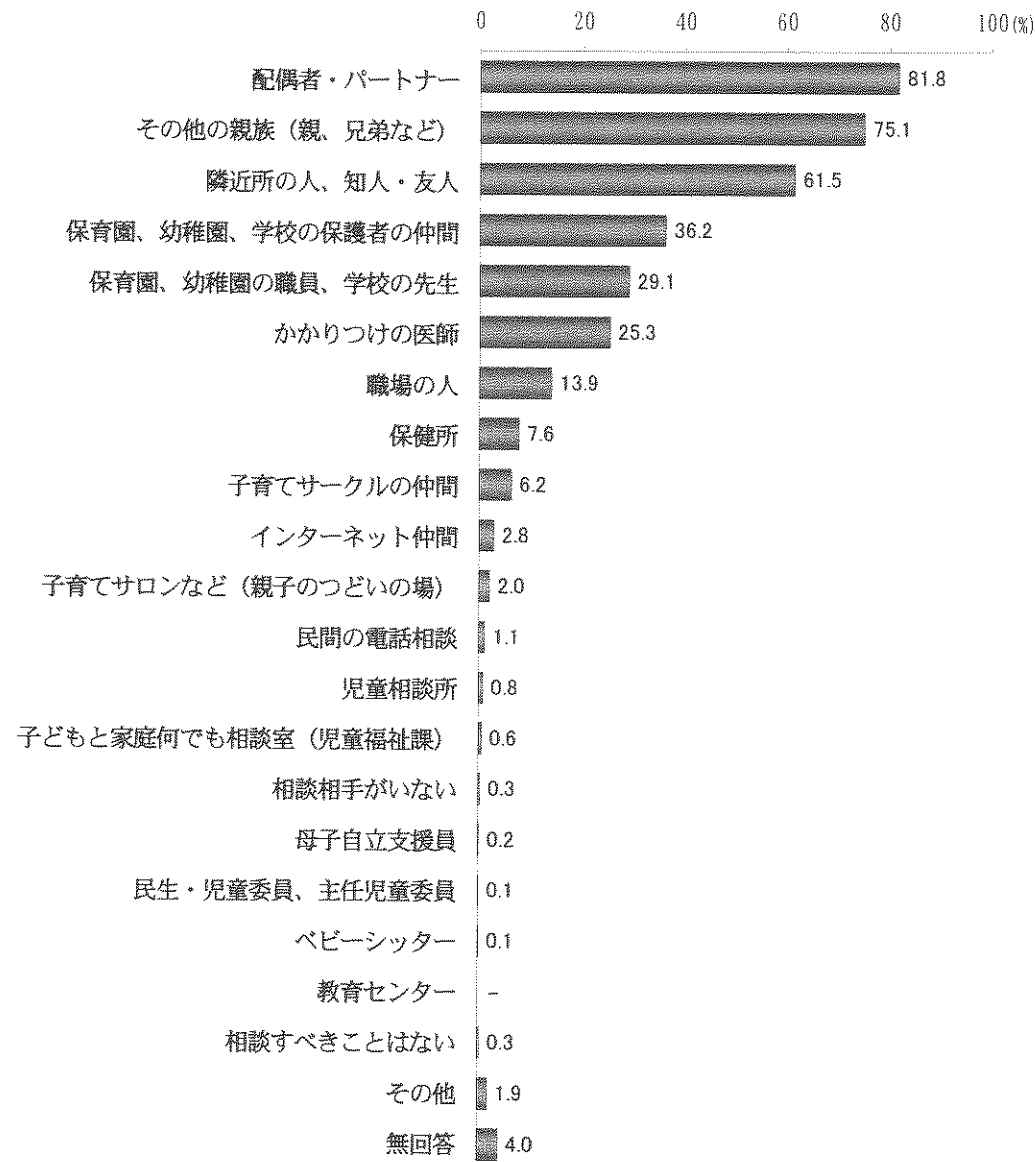
出典：荒川区次世代育成に関するニーズ調査（平成 15 年 12 月実施）

子育てについて不安や負担を感じる理由は、「子どもに関する犯罪が心配」が最も多く(65.7%)、次いで「子育てにお金がかかりすぎる」(45.2%)、「子育てには大きなストレスがある」(38.8%)、「仕事や自分のやりたいことができなくなる」(38.2%)とつづく。

1-4 子育て

【悩みや不安の相談相手】

n=892



出典：荒川区次世代育成に関するニーズ調査(平成15年12月実施)

子育ての悩みや不安の相談相手としては、「配偶者・パートナー」が最も多く(81.8%)、次いで「その他親族(親、兄弟など)」(75.1%)、「隣近所の人、知人・友人」(61.5%)とつづく。

●子ども家庭支援センターの概要

(1) 事業概要

設置目的	子どもと家庭に関する相談に応じ、関係機関と連携しながら、子どもと家庭に関する総合的な支援を行う。
所在地	荒川5-12-10
開設年月	平成16年4月(平成18年4月に上記所在地へ移転)
事業内容	①子どもと家庭に関する総合相談 ②子育て情報の提供 ③子育て支援サービスの申込・受付 ④児童虐待防止ネットワークの運営 ⑤子育て交流サロンの運営
開所時間	8:30~17:15 子育て交流サロンは9:00~17:00

(2) 相談・活動実績

単位：件

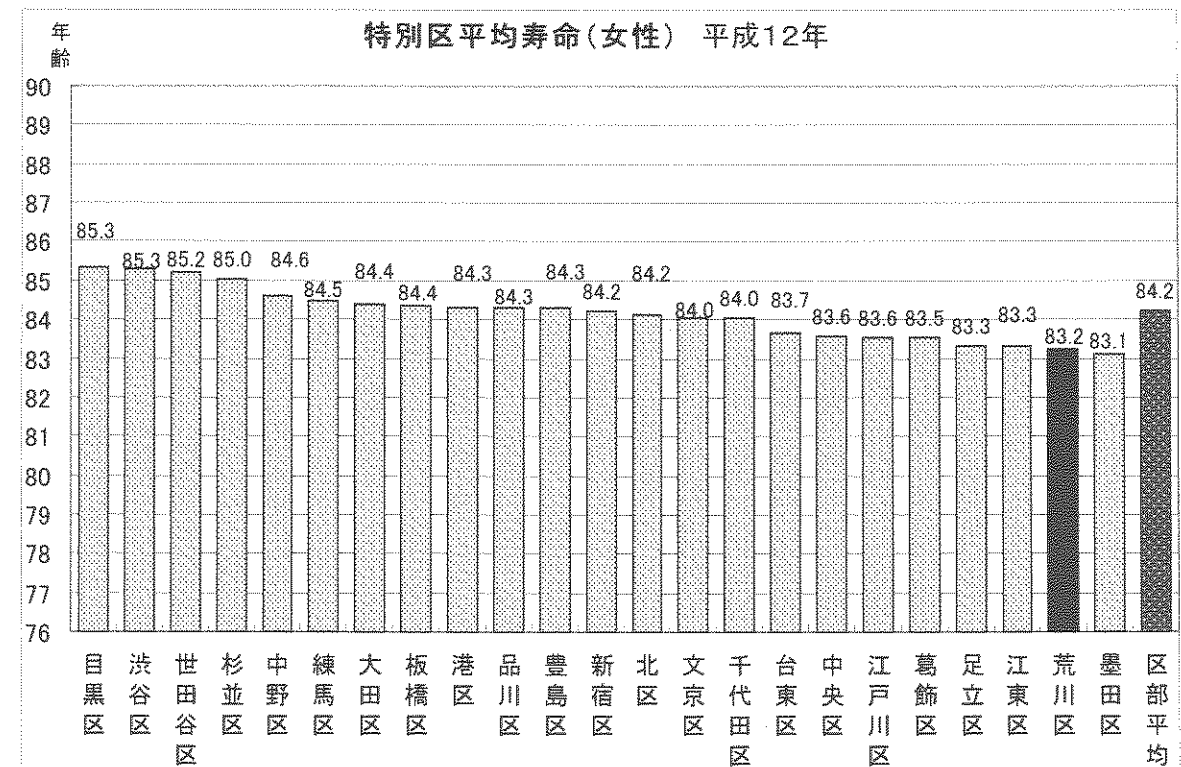
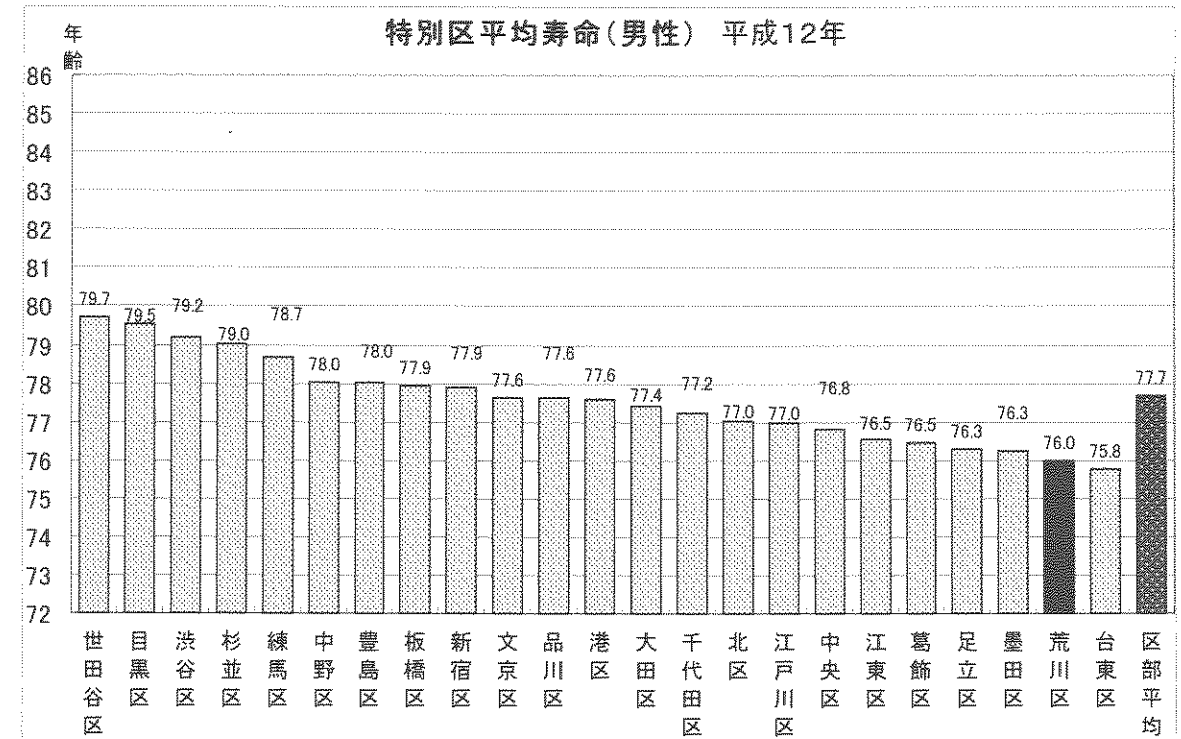
分類	平成16年度	平成17年度
1 健康	20	20
2 家庭・生活環境	281	638
3 発育・発達	12	43
4 養育不安	130	223
5 虐待関連	231	271
6 基本的生活習慣	6	2
7 教育・しつけ	58	38
8 非行等	9	47
9 経済・就労	3	0
10 各種サービス問合せ	365	301
11 その他	63	37
計	1,178	1,620

出典：荒川区子育て支援部計画課資料

● 青少年対策地区委員会の概要

目的	青少年問題の重要性に鑑み、地域社会の力を結集し、荒川区青少年問題協議会において調整された施策の実現に協力するとともに、地域における青少年の健全育成を図ることを目的とする。										
組織	<p>(1) 沿革 区長の附属機関として条例に基づき設置された「荒川区青少年問題協議会（青少協）」のもと、昭和32年、5地区（南千住、三河島、町屋、尾久、日暮里）に青少年対策地区委員会が結成された。昭和37年には青少協から独立した団体として再発足し、今日に至る。</p> <p>(2) 委員数（任期2年）（平成18年4月現在）</p> <table border="1"> <tr> <td>南千住</td> <td>荒川</td> <td>町屋</td> <td>尾久</td> <td>日暮里</td> </tr> <tr> <td>82</td> <td>117</td> <td>139</td> <td>100</td> <td>101</td> </tr> </table> <p>(3) 委員構成 青少年委員、体育指導委員、保護司会、民生・児童委員 小・中・高校PTA、青少年団体、町会、商店会、警察署、防犯協会 交通安全協会、少年補導員等</p> <p>(4) 役員 会長、副会長、会計、監事、理事・常任委員等</p> <p>(5) 部会 広報部、補導部、育成部、環境対策部 等</p>	南千住	荒川	町屋	尾久	日暮里	82	117	139	100	101
南千住	荒川	町屋	尾久	日暮里							
82	117	139	100	101							
活動目標	<p>(1) 地域における青少年健全育成に係る団体・公的機関相互の連絡調整</p> <p>(2) 青少年の社会参加促進に係る事業の実施</p> <p>(3) 家庭教育の充実・推進</p> <p>(4) 青少年に有害な環境の浄化 等</p>										
主な事業	<p>(1) 健全育成 こどもまつり、スポーツ大会、中学生主張大会 等</p> <p>(2) 団体育成 一日子ども大会等</p> <p>(3) 非行防止・環境浄化 社会を明るくする運動、環境浄化活動、街頭パトロール</p> <p>(4) 家庭教育 親子座談会、家庭教育講座、わがまちあんしん110番協力者の集い 等</p> <p>(5) その他 広報紙、研修会、学校・PTAとの懇談会 等</p>										

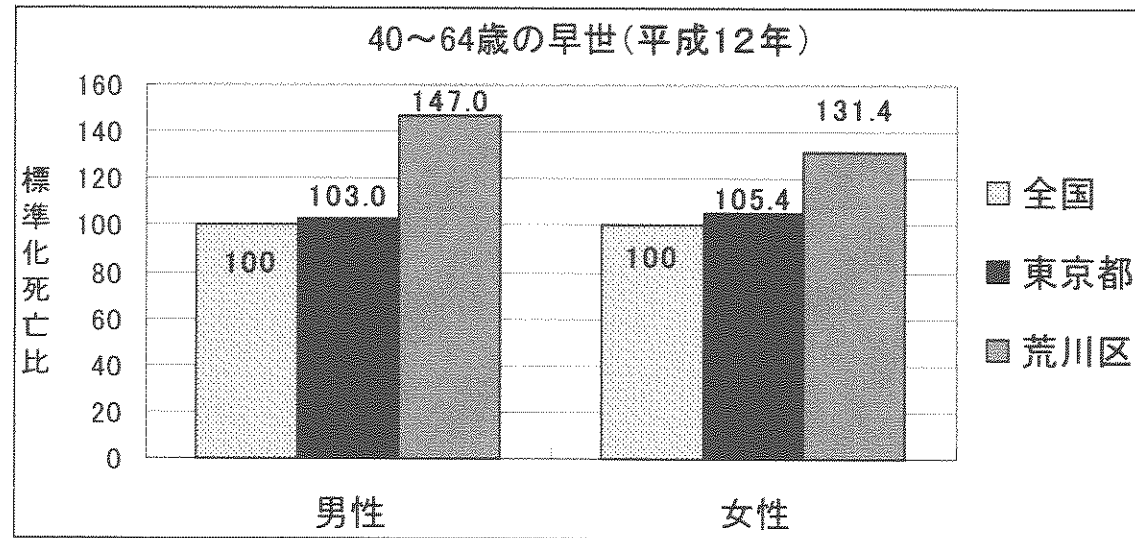
● 平均寿命の23区比較



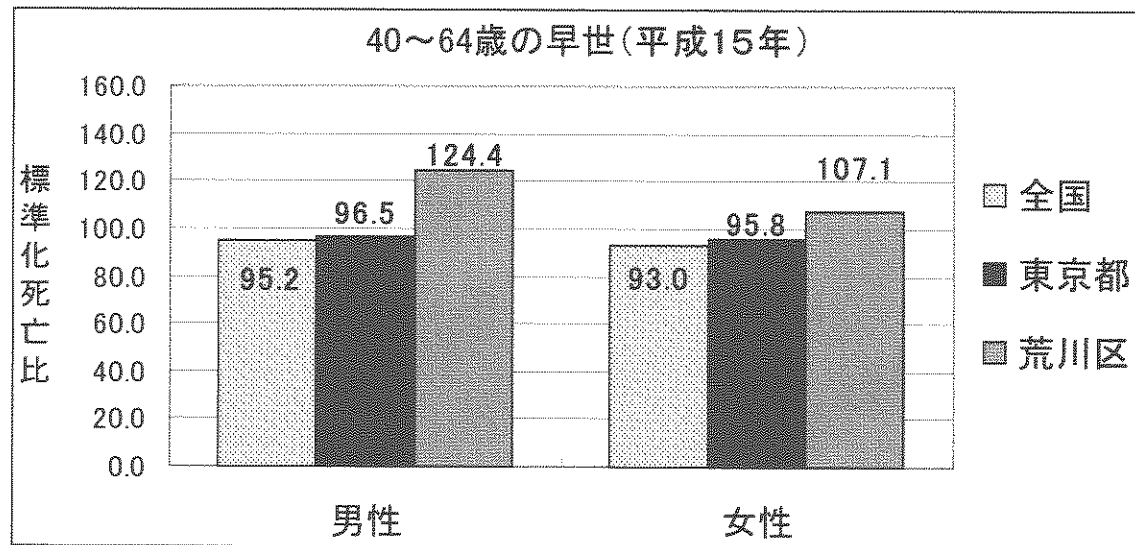
出典：荒川区健康部健康推進課資料

平成12年の荒川区の男性の平均寿命は76.0歳で23区中22番目である。女性の平均寿命は83.2歳で同じく22番目である。

●早世の状況



	人口	死亡数
全国	H12年10月	H12年
東京都	H12年10月	H12年
荒川区	H10～12年7月の平均	H10～12年の平均

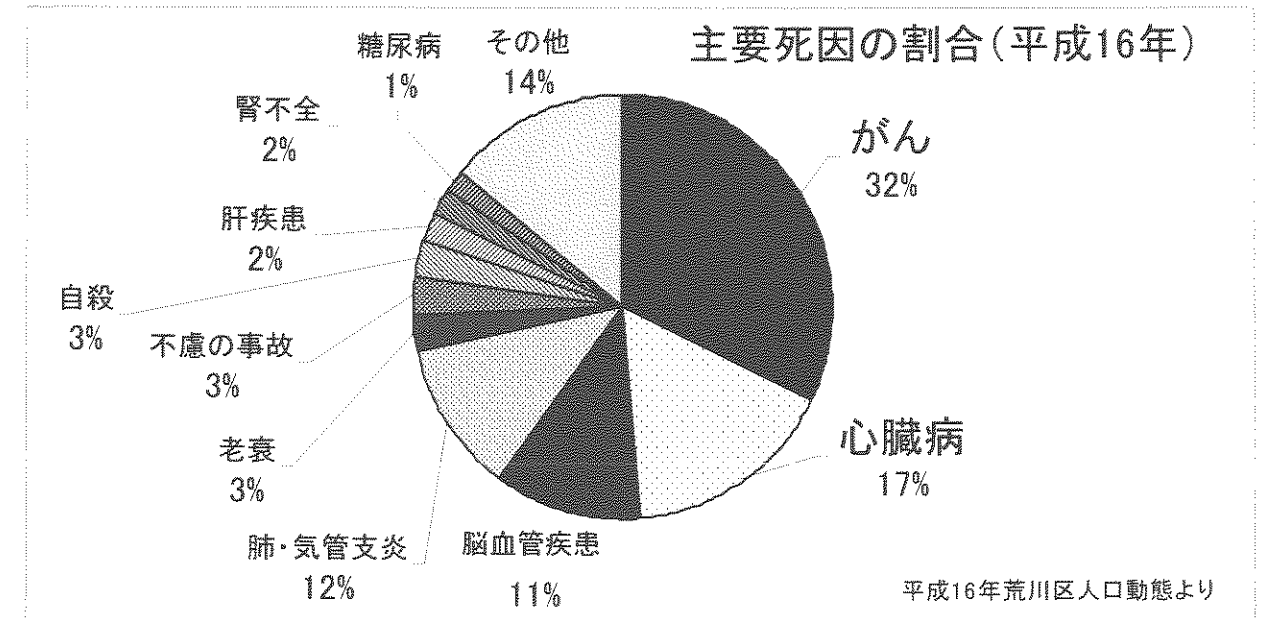


	人口	死亡数
全国	H15年10月	H15年
東京都	H15年10月	H15年
荒川区	H13～15年7月の平均	H13～15年の平均

出典：荒川区健康部健康推進課資料

早世の状況(40～64歳)をみると、荒川区は男女とも全国平均や都平均に比べ早世の死亡比が高い。また平成12年から15年にかけては全体的に死亡比が低くなっている。

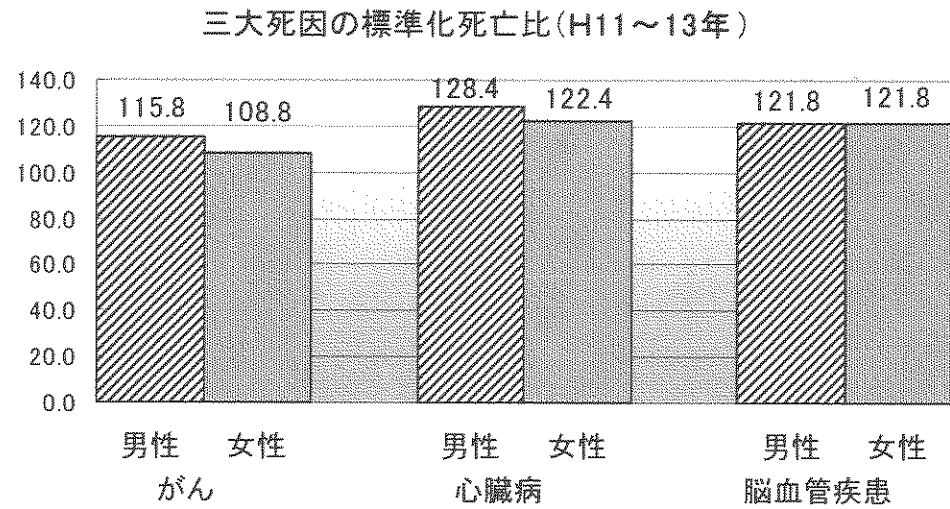
●主要死因の割合



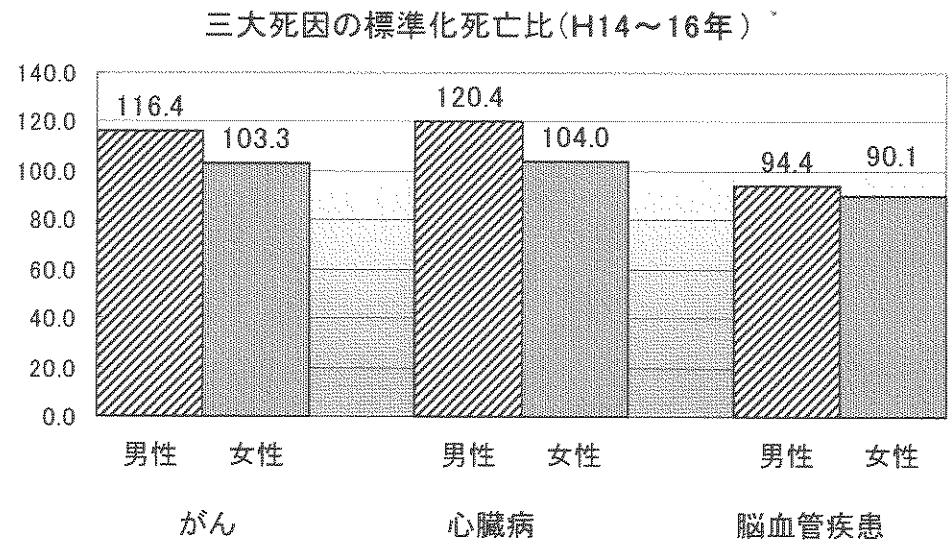
出典：平成16年荒川区人口動態

「がん」(32%)が最も多く、次いで「心臓病」(17%)、「肺・気管支炎」(12%)、「脳血管疾患」(11%)と続き、この4死因で全体の7割以上を占める。

●三大死因の標準化死亡比



H11~13年死亡数

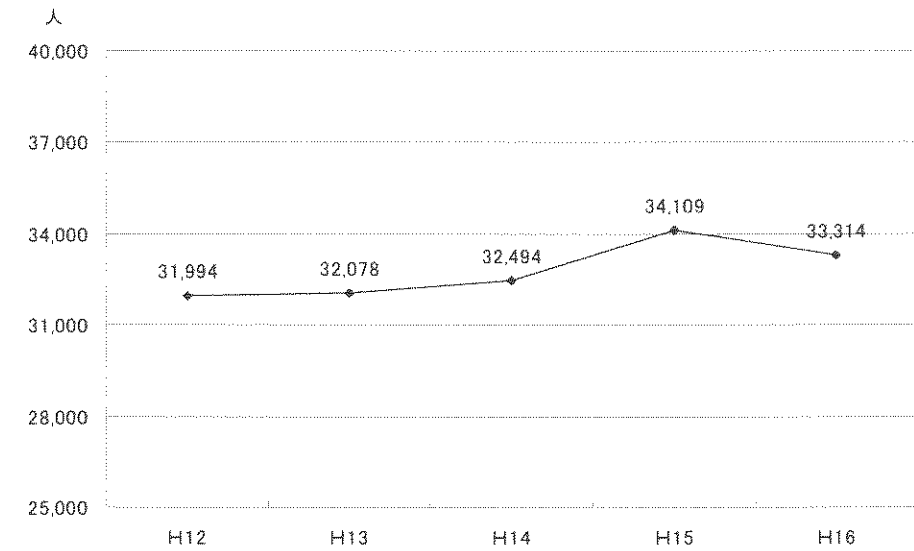


H14~16年死亡数
出典：荒川区健康部健康推進課資料

主な生活習慣病による標準化死亡比※をみると、全国と比べて女性より男性の死亡比が全体的に高く、特に心臓病が高くなっている。また、平成11~13と平成14~16の推移を見ると、男女ともに脳卒中の死亡比が下がっている。

※標準化死亡比とは、各地域の年齢階級別人口と全国の年齢階級別死亡率により算出されたもの。全国を100(基準値)として標準化死亡比が100より大きいときは死亡状況が全国より悪い、100より小さいときは全国より良いことを意味する。

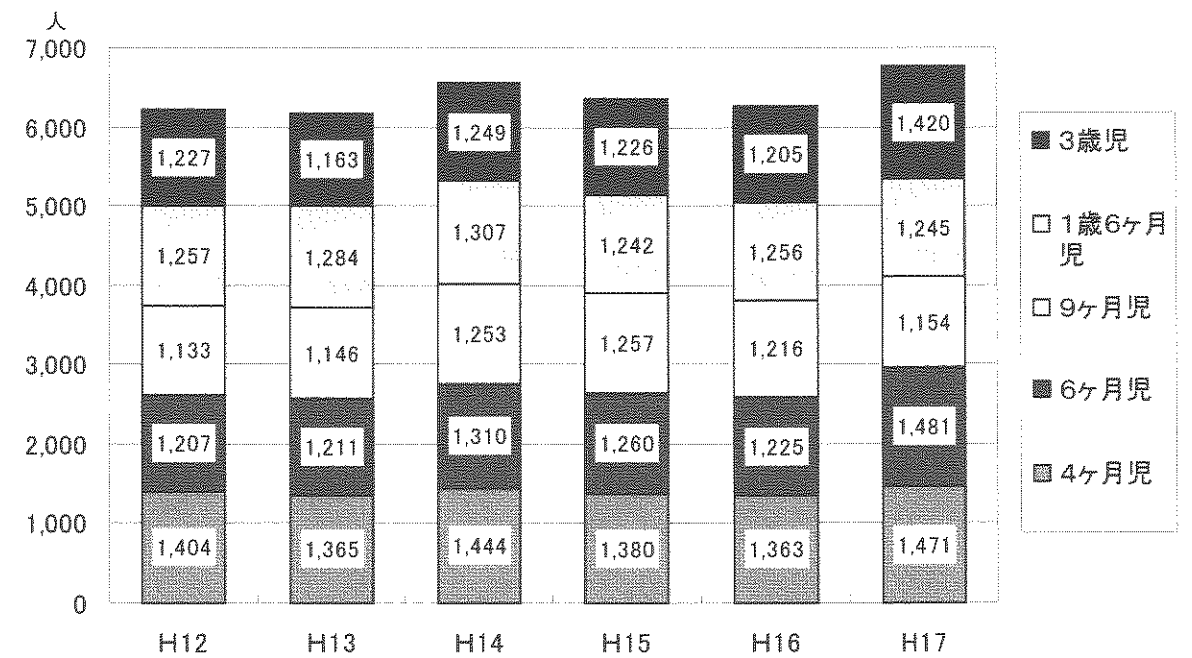
●基本健康診査受診者数の推移(対象者：40歳以上)



出典：荒川区健康部健康推進課資料

基本健康診査受診者数の推移をみると、平成16年度は15年度と比べやや減少し、約33,300人である。

●乳幼児健康診査受診者数の推移

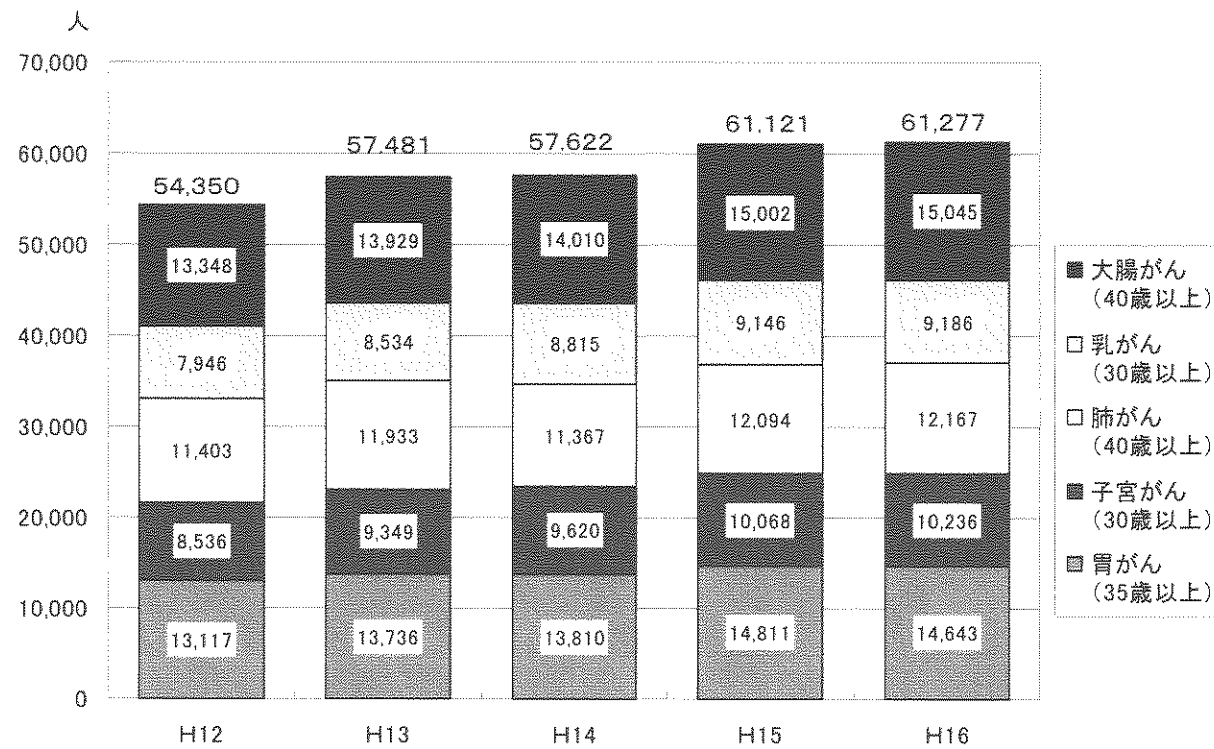


出典：荒川区健康部健康推進課資料

乳幼児健康診査受診者数をみると、ほぼ横ばいで推移している。

2-4 健康

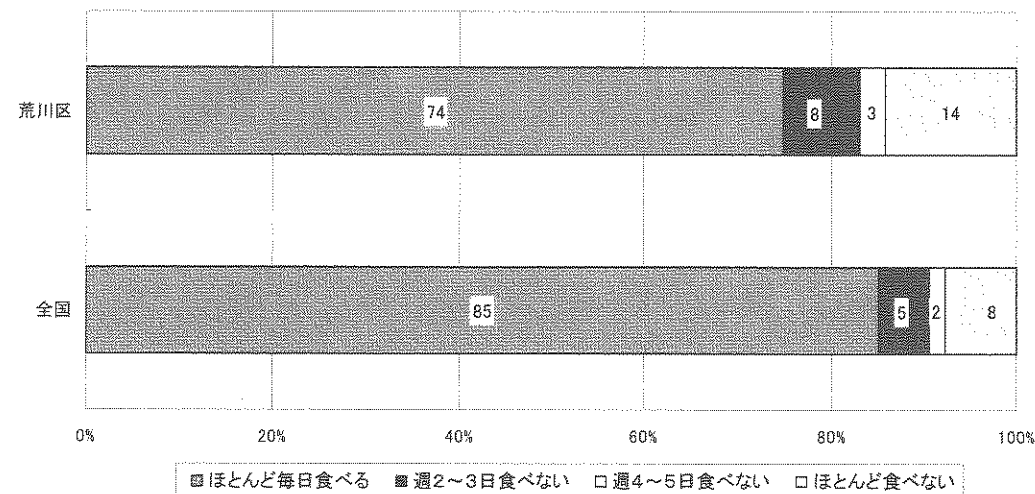
● がん検診受診者数の推移



出典：荒川区健康部健康推進課資料

がん検診受診者数の推移をみると、平成12年以降着実に受診者数が増加している。

● 朝食欠食の状況



出典：平成12年区民健康意識調査

荒川区は、全国平均と比べ、朝食を欠食する割合が高くなっている。

● 結核罹患率の推移

結核対策

結核罹患率は、昭和30年を境に減少している。当区においては、全国や東京都に比べてまだ罹患率が高く、ハイリスク者の多い地区もある。

新登録患者数(人)

	12年	13年	14年	15年	16年	17年
	106	115	87	97	91	89

罹患率

	12年	13年	14年	15年	16年	17年
荒川区	57.2	62.9	46.9	51.9	48.7	47.1
東京都平均	37.7	33.8	32.4	32.7	30.2	29.9
国平均	31	27.9	27	25.8	23.3	集計中

出典：荒川区健康部保健予防課資料

● 食中毒発生件数

平成17年度 食中毒発生状況 (平成17年4月1日～平成18年3月31日)

	発生件数	患者数	【都内】最近10年間の平均は、事件数100.5件、患者数2,112人。 【区内】16年度0件0人。15年度1件1人、14年度1件11人、13年度1件26人。 ()内は平成16年度
都内	92件 (73件)	2247名 (1818名)	
区内	4件 (0件)	121名 (0名)	

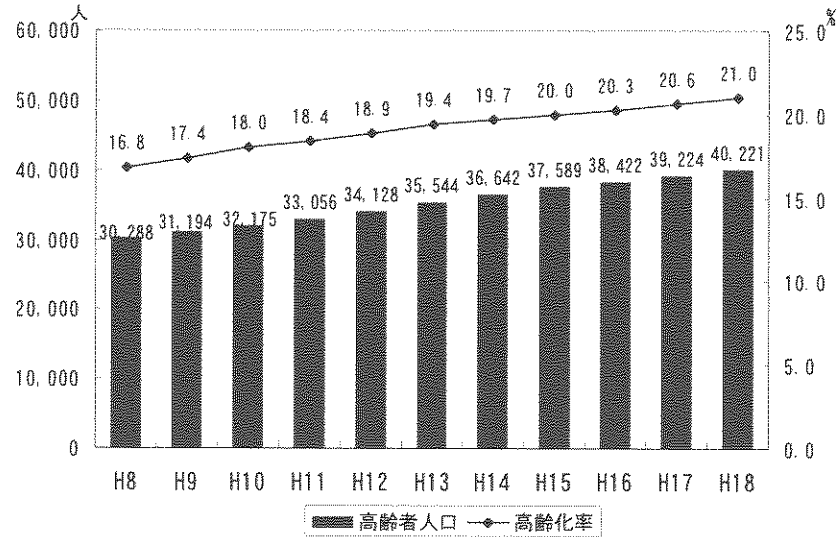
出典：荒川区健康部生活衛生課資料

3 福祉

■ 高齢者福祉

● 高齢者人口等の状況

[荒川区の高齢者人口・高齢化率]

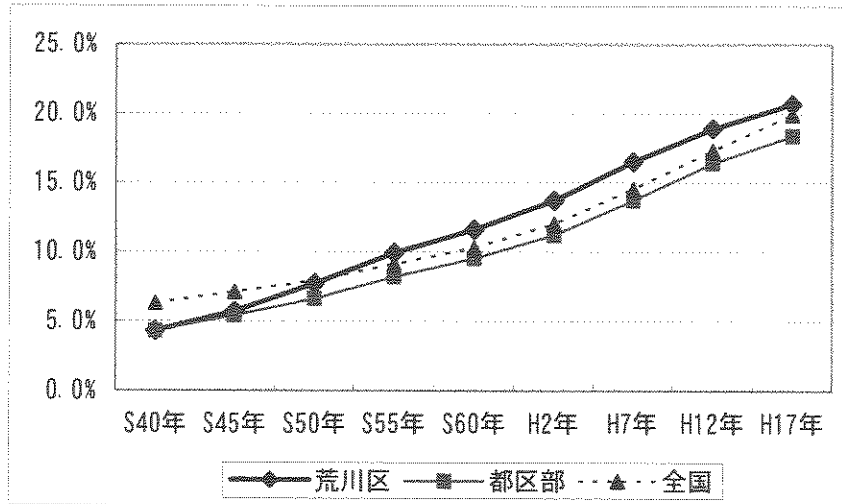


※高齢者人口は、住民基本台帳人口と外国人人口の計
 ※数値は、各年4月1日現在

出典：福祉部福祉高齢者課資料

荒川区の過去11年間の高齢者人口・高齢化率は、共に一貫して増加している。

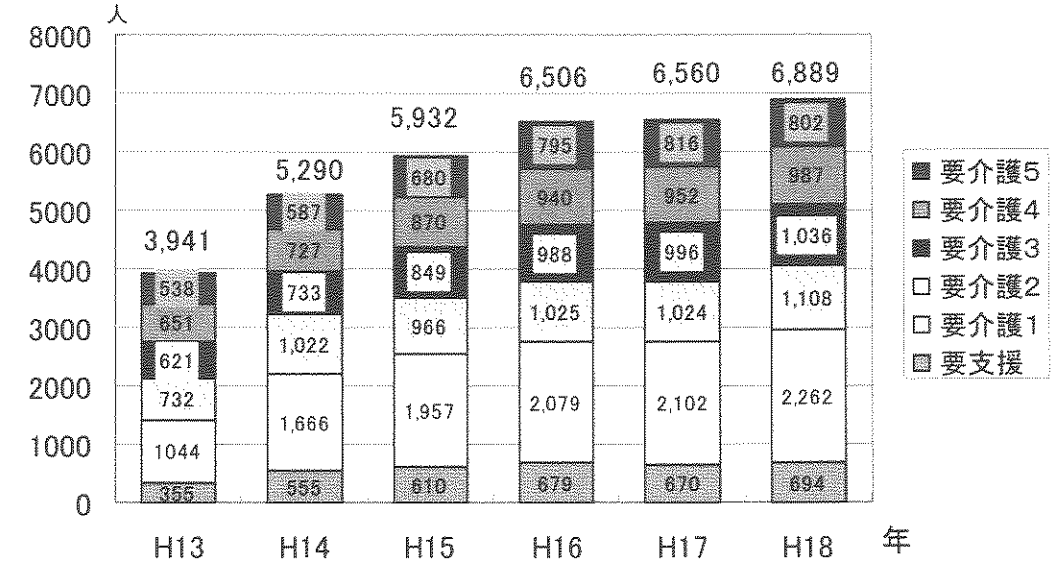
[高齢化率の推移（国・都区部との比較）]



※S40年～H12年は、国勢調査に基づく高齢化率
 ※荒川区のH17年は、10月1日現在の住民基本台帳人口及び外国人登録人口の合計
 ※東京都区部の平成17年は、東京都総務局統計部「東京都男女年齢（5歳階級別人口の予測（平成15年3月公表）」）
 ※全国のH17年は、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」（平成14年1月推計）

昭和40年以降、荒川区・全国・都区部の高齢化率は、すべて増加傾向にある。全国・都区部と比較すると、荒川区が現在一番高い比率となっている。

● 要介護認定者数の推移

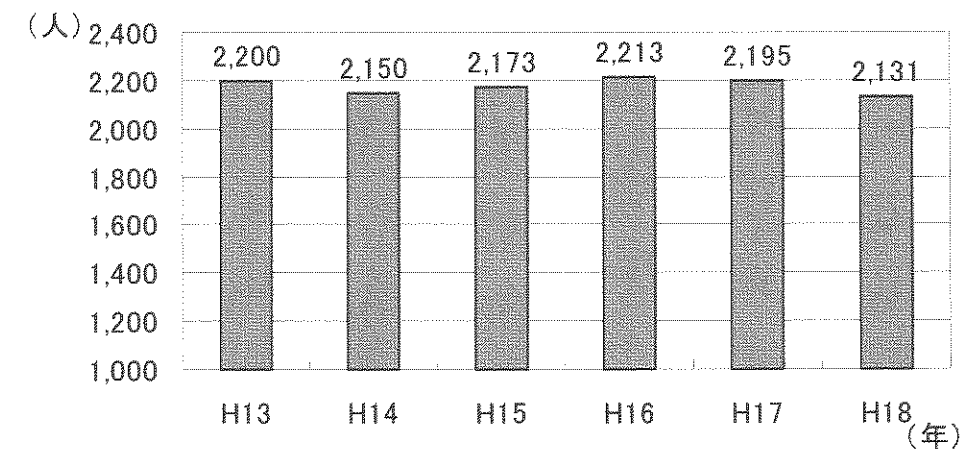


※各年3月31日現在の数値

出典：荒川区福祉部介護保険課資料

要介護認定者数は、平成13年以降、一貫して増加している。

● ひとり暮らし高齢者の推移



※各年4月1日現在の数値

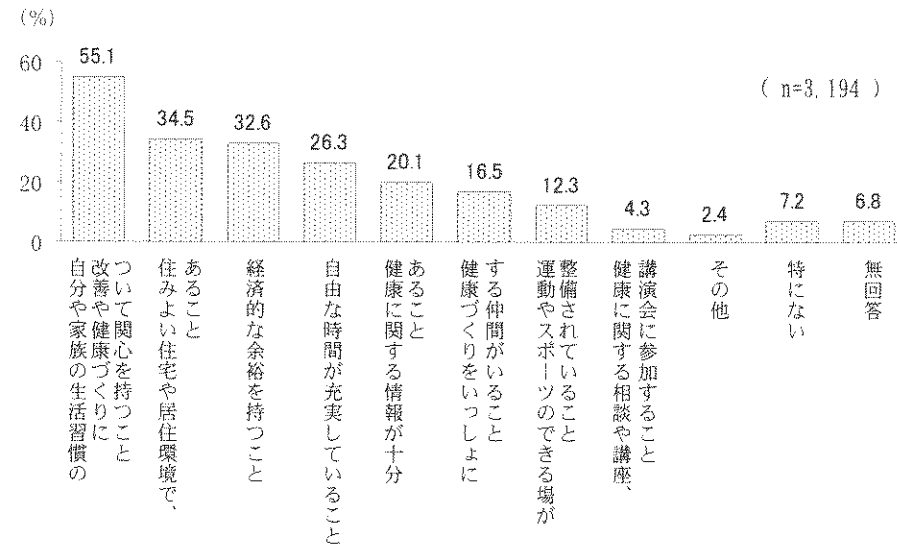
出典：荒川区福祉部福祉高齢者課資料

ひとり暮らし高齢者数は、平成13年以降、概ね2,200人前後で推移している。

3-2 福祉

● 高齢者生活状況調査結果

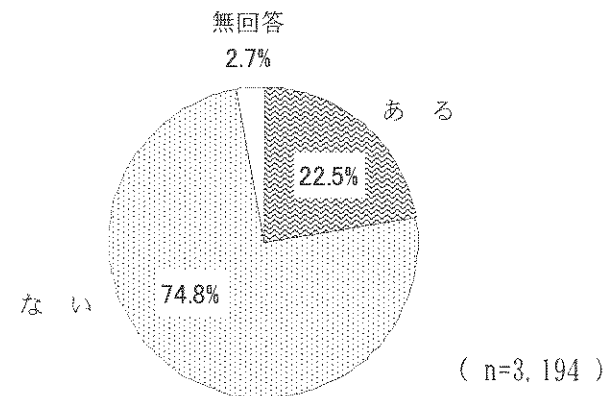
【病気予防、健康維持のために必要なこと】



出典：荒川区高齢者生活状況調査（平成17年11月実施）

病気予防、健康維持のために必要なことは、「生活習慣改善や健康づくりに関心を持つこと」(55.1%)が最も多く、次いで「住みよい住宅や居住環境であること」(34.5%)、「経済的な余裕を持つこと」(32.6%)と続く。

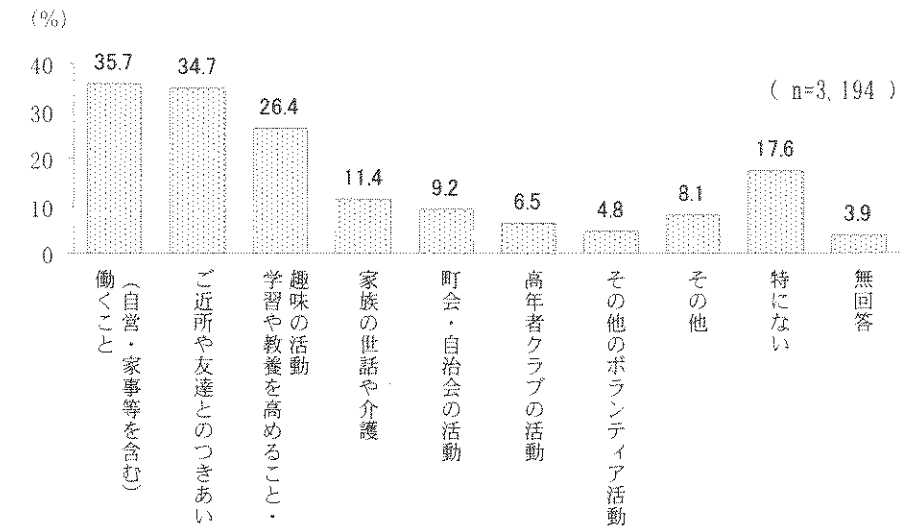
【この1年間の転倒経験の有無】



出典：荒川区高齢者生活状況調査（平成17年11月実施）

この1年間の転倒経験がある高齢者は、22.5%と4分の1弱を占める。

【生きがいを感じていること】

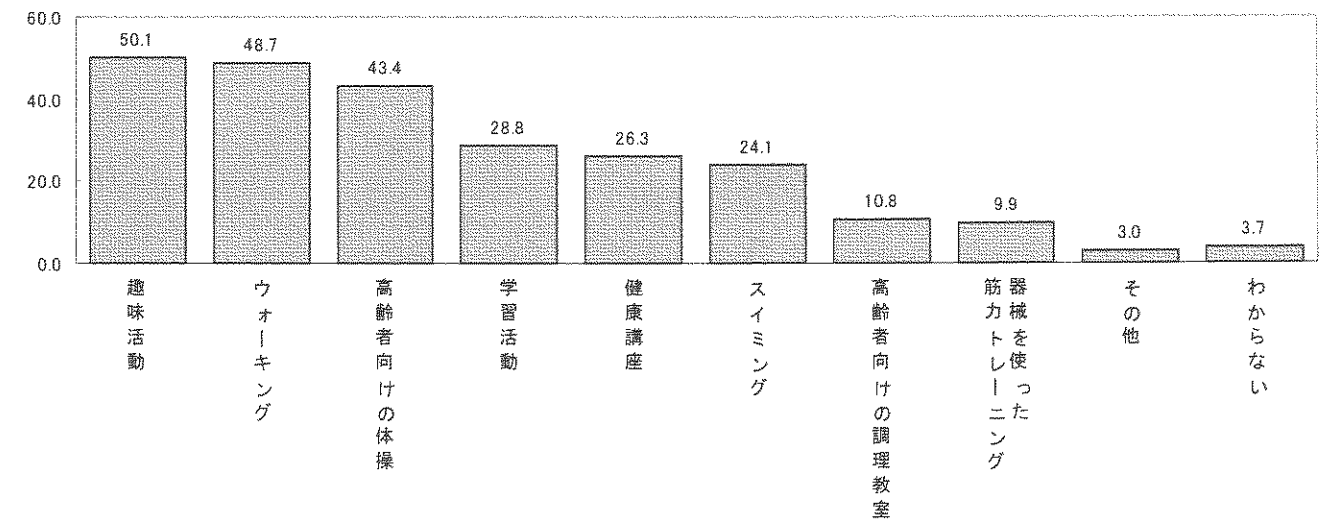


出典：荒川区高齢者生活状況調査（平成17年11月実施）

現在、生きがいを感じていることは、「働くこと(自営・家事等を含む)」(35.7%)が最も多く、次いで「ご近所や友達とのつきあい」(34.7%)、「学習や教養を高めること・趣味の活動」(26.4%)と続く。

● 区政世論調査結果

【介護予防について効果的なもの】



出典：第29回荒川区区政世論調査（平成16年）

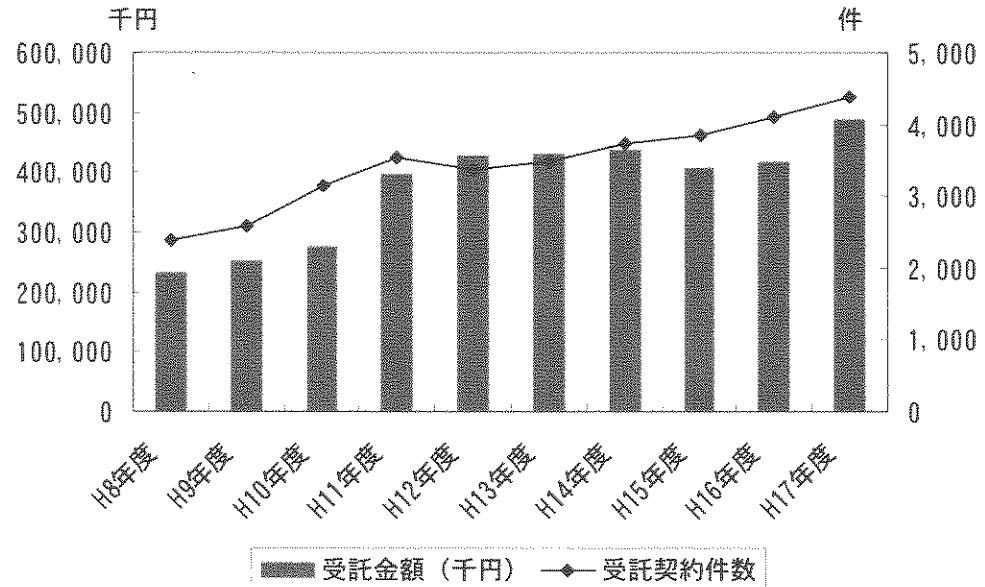
介護予防に効果的なものは、「趣味活動」(50.1%)、「ウォーキング」(48.7%)、「高齢者向けの体操」(43.4%)との回答が多かった。

3-3 福祉

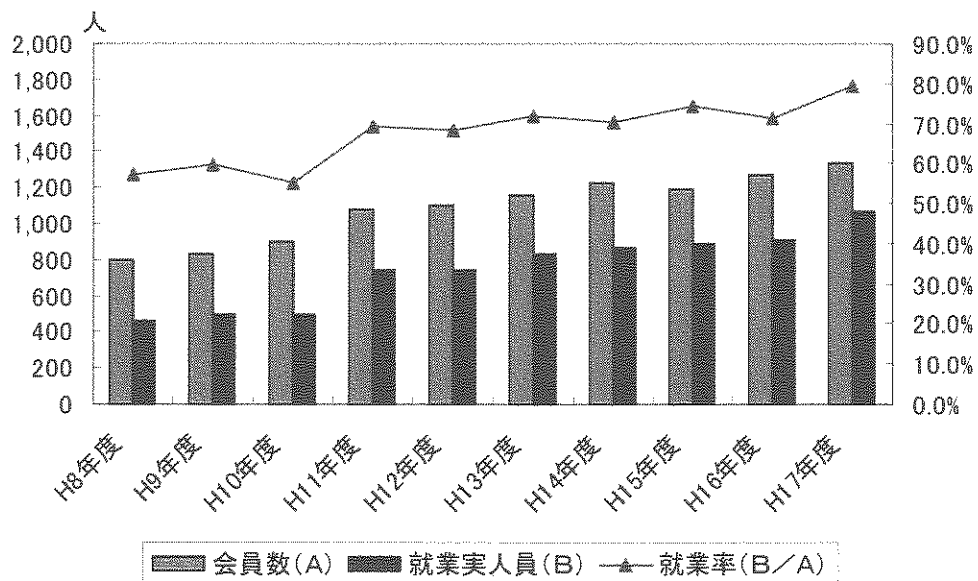
●荒川区シルバー人材センターの事業実績

区分	H8年度	H9年度	H10年度	H11年度	H12年度	H13年度	H14年度	H15年度	H16年度	H17年度
会員数(A)	803	832	901	1,076	1,096	1,160	1,229	1,195	1,275	1,342
受託契約件数	2,382	2,592	3,150	3,546	3,357	3,477	3,728	3,839	4,104	4,372
受託金額(千円)	232,719	254,352	277,656	396,798	427,929	432,783	436,955	406,841	416,940	487,471
就業延人員	79,902	76,130	83,513	113,705	123,353	126,023	130,138	127,317	130,178	151,809
就業実人員(B)	459	498	496	744	746	833	866	889	909	1,063
就業率(B/A)	57.2%	59.9%	55.0%	69.1%	68.1%	71.8%	70.5%	74.4%	71.3%	79.2%
就業会員の平均的配分月額	50,429	51,739	54,975	55,369	55,437	52,901	51,061	46,339	46,767	48,807

受託金額と受託契約件数の推移



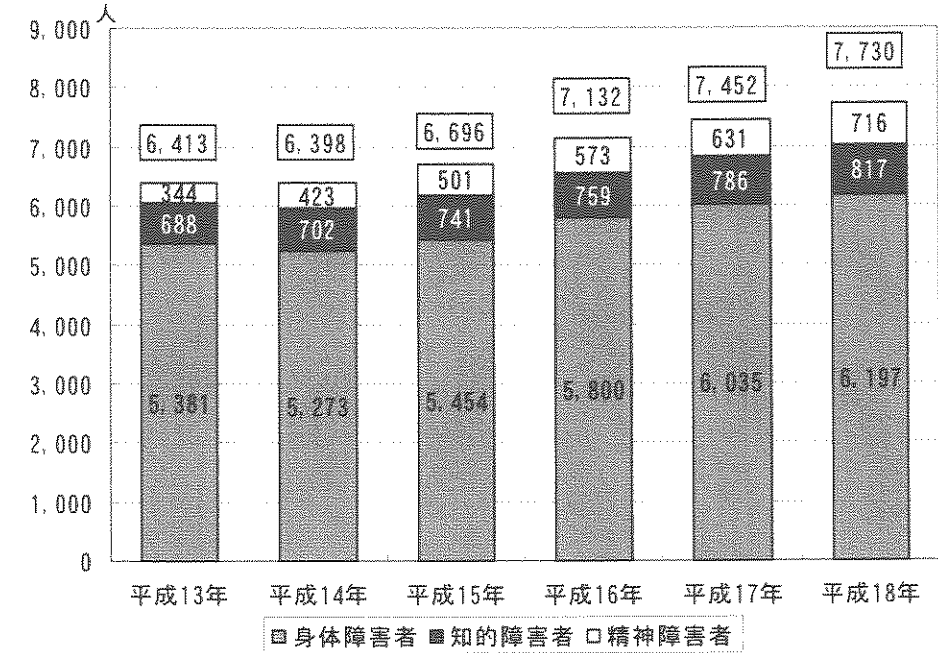
会員数・就業実人員・就業率の推移



出典：荒川区福祉部福祉高齢者課資料

シルバー人材センターの受託件数、受託金額、会員数、就業実人員数とも、増加傾向がみられる。

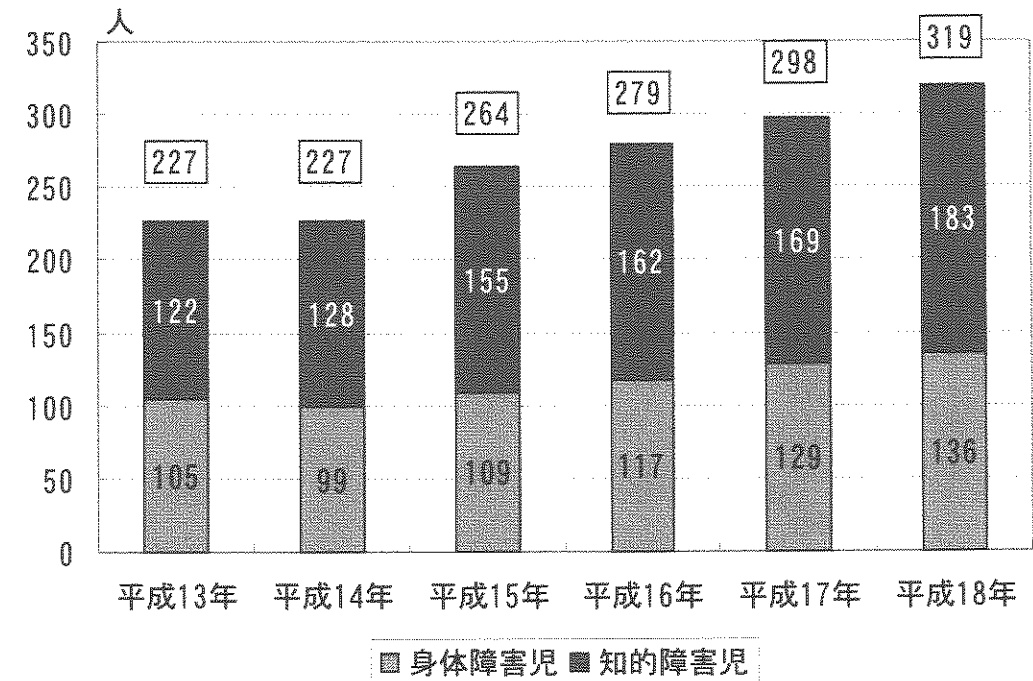
■ 障害者福祉 ● 障害者数の推移



※各年3月31日現在の数値

出典：荒川区福祉部障害者福祉課資料

● 障害児(18歳未満)の推移



各年3月31日現在の数値

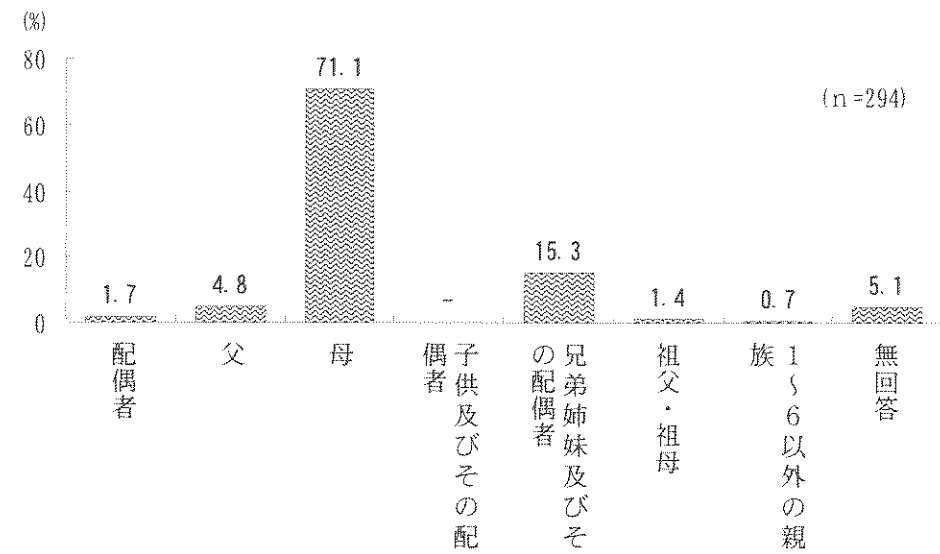
出典：荒川区福祉部障害者福祉課資料

障害者数は、平成14年度以降、一貫して増加している。障害者における身体障害者の占める割合は、現在約8割となっている。障害児の数は、平成14年以降増加傾向にある。

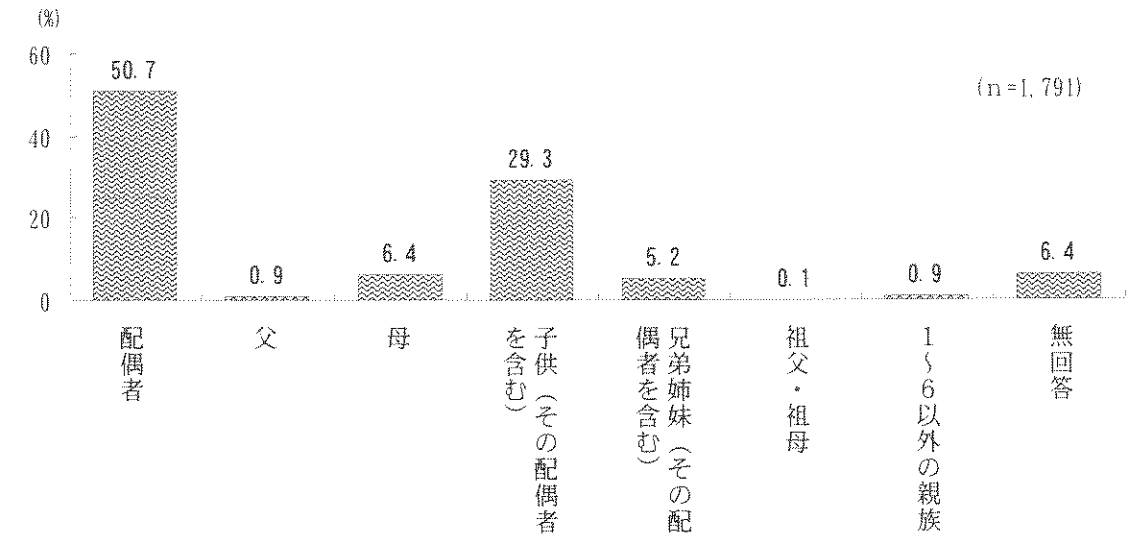
● 障害者等実態調査結果

【主な介助者】

《知的障害者》



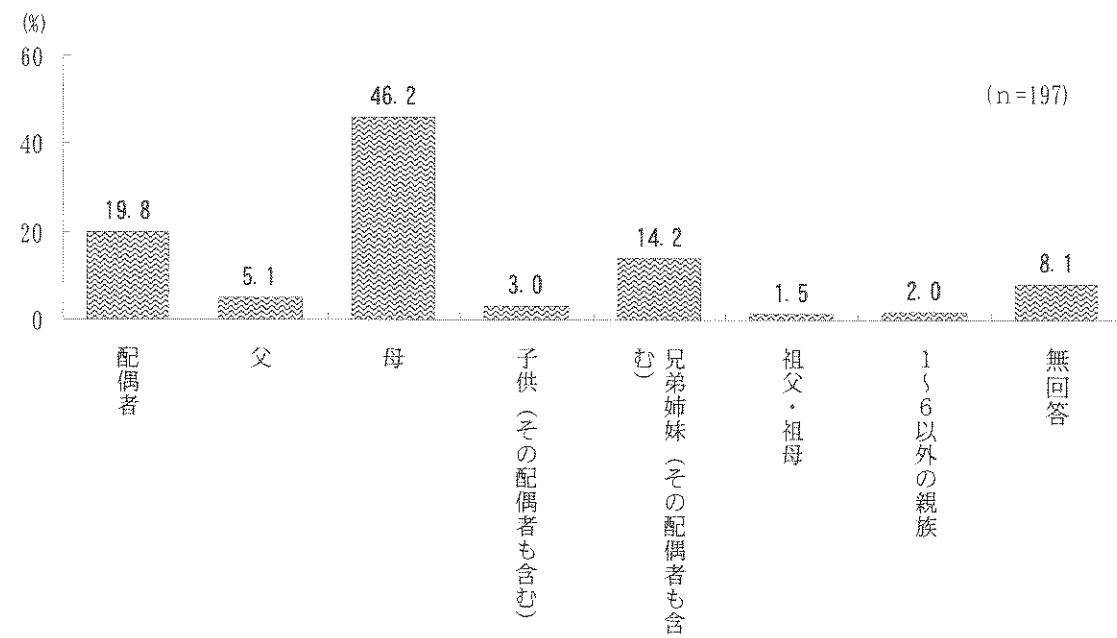
《身体障害者》



荒川区障害者等実態調査（平成17年1月実施）

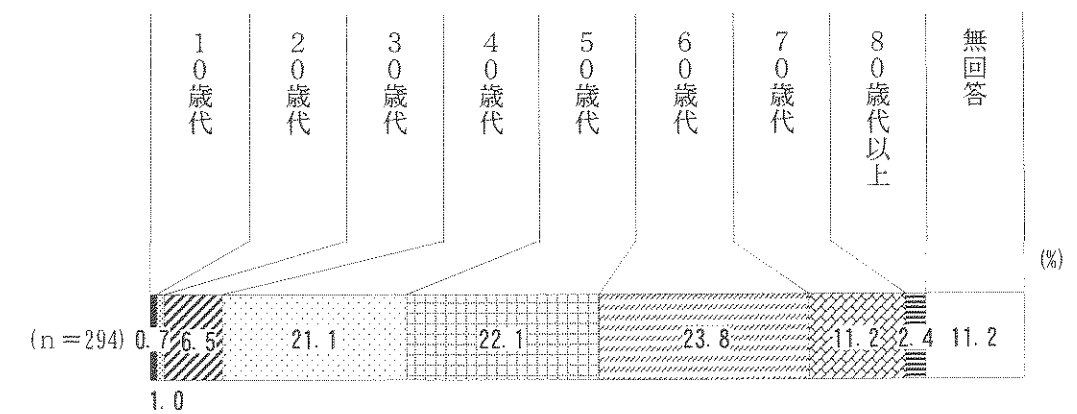
主な介助者を見ると、知的障害者及び精神障害者では「母」が最も多くそれぞれ 71.1%、46.2%を占め、身体障害者では「配偶者」が最も多く、50.7%を占めている。

《精神障害者》

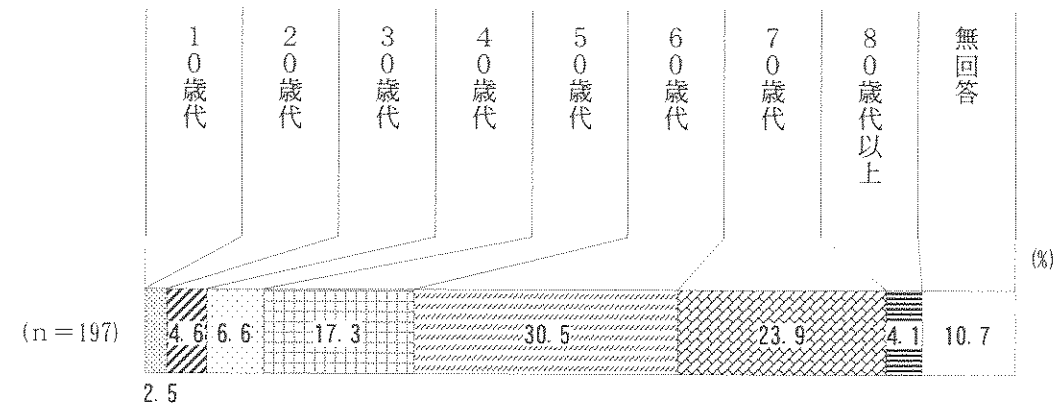


【介助者の年齢】

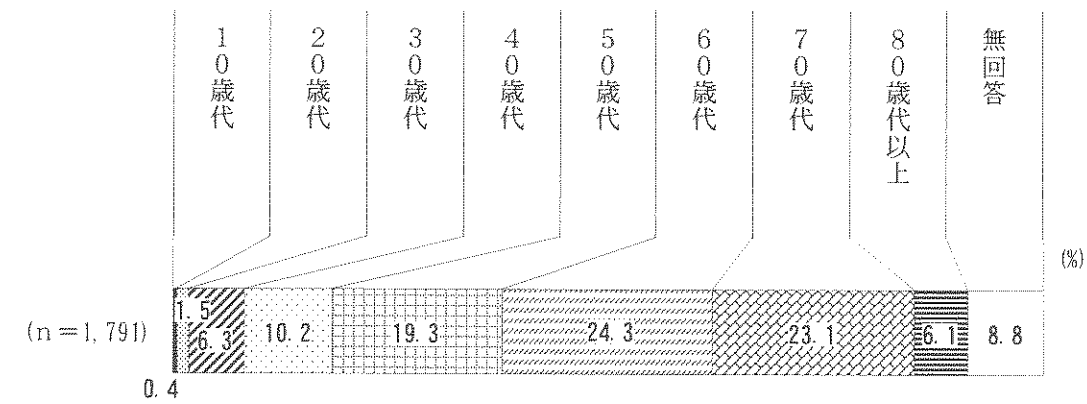
《知的障害者》



《精神障害者》



《身体障害者》

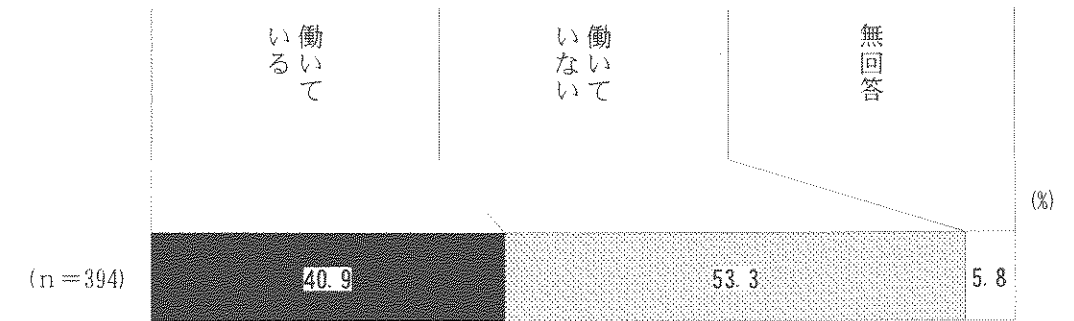


荒川区障害者等実態調査（平成17年1月実施）

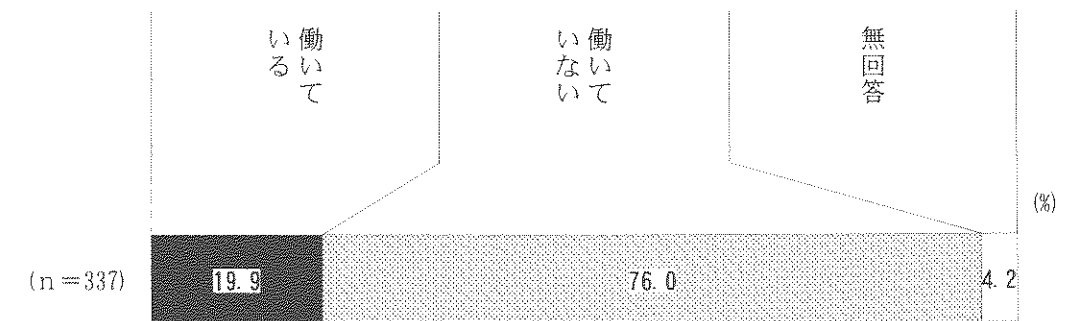
介助者の年齢をみると、60歳以上の介助者の割合は、知的障害者では37.4%、精神障害者では58.5%、身体障害者では53.5%であり、知的障害者は相対的に若い介助者が多く、精神障害者は高齢の介護者が多い。

【就労状況】

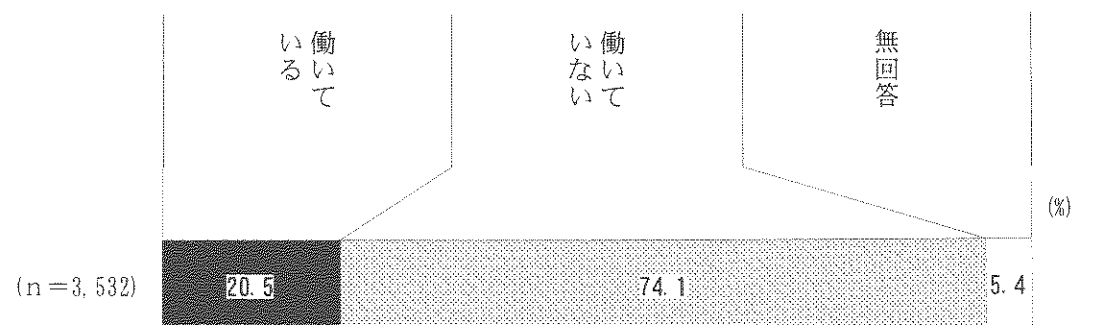
《知的障害者》



《精神障害者》



《身体障害者》



荒川区障害者等実態調査（平成17年1月実施）

働いている障害者の割合は、知的障害者では40.9%、精神障害者では19.9%、身体障害者では20.5%となっている。

● 精神障害者地域生活支援センターの概要

施設名	精神障害者地域生活支援センターアゼリア			
設置目的	地域で生活する精神障害者の日常的な相談、生活支援、地域交流などを行うことにより、精神障害者の社会復帰と自立、社会参加の促進をめざす施設			
所在地	東尾久5-45-11（宮の前ひろば館と併設）			
開設年月	平成15年1月			
敷地面積等	（敷地）全体295.46㎡（延床）316.10㎡			
事業内容	①生活相談（電話・面接による各種相談） ②日常生活支援（調理・就労など支援プログラムの実施） ③地域交流（コンサート・各種講座等を通じた交流） ④喫茶コーナー			
施設内容	相談室、静養室、食堂兼談話室、地域交流兼訓練室、調理場、喫茶コーナー、図書・インターネットコーナー			
利用実績		15年度	16年度	17年度
	利用者数（人）	10,435	7,394	8,738
	生活相談（人）	9,635	11,811	11,442

● 障害者就労支援事業（じょぶあらかわ）の概要

目的	障害者の就労の機会を広め、安心して働き続けられるよう、専任のコーディネーターが、本人や家族、企業から相談を受け、就労の支援を行う。
対象	身体障害者手帳、愛の手帳、精神保健福祉手帳の交付を受けた本人及び家族のみでは、就労活動や就労継続が困難な方 ①一般就労を希望する在宅の方 ②福祉的就労に就いている方 ③企業・事業所等に在職の方
事業内容	就労支援コーディネーター及び生活支援コーディネーターが、利用者の必要に応じて以下の支援を行う。 【就労面の支援】 ①職業相談（障害者雇用に関する区内事業主から一般的相談も含む） ②就職準備支援 ③職場開拓 ④職場実習支援 ⑤職場定着支援 ⑥離職時の調整及び離職後の支援 【生活面の支援】 ①日常生活の支援 ②安心して職業生活を続けられるための支援 ③豊かな社会生活を築くための支援 ④将来設計や本人の自己決定支援
利用方法	本人及びその家族、事業主等からの相談、または申込による利用者登録が必要
利用者負担	原則無料（ただし、就労活動に際しての交通費及びレクリエーション活動等は、自己負担）
所在地	荒川区南千住1-13-20 荒川区社会福祉協議会内

■登録者数等

単位：人

	平成16年度	平成17年度
登録者数	105	128
新規就労者数	35	33
身体	12	6
知的	19	21
精神	4	6

■種類別件数

単位：件

種別	平成16年度	平成17年度
職業相談	557	782
就職準備支援	699	897
職場開拓	156	315
職場実習支援	208	129
職場定着支援	387	545
就職時・離職後	61	71
就労支援 計	2,068	2,739
生活相談	205	234
日常生活の支援	322	276
安心して職業生活を続けられるための支援	88	74
豊かな社会生活を築くための支援	239	470
将来設計や本人の自己決定支援	65	107
関連機関との連携	1,080	1,341
生活支援 計	1,999	2,502

3-7 福祉

● 障害者福祉会館の概要

施設名	障害者福祉会館（アクロスあらかわ）																			
設置目的	障害のある人の社会参加を促進するために、障害のある人やボランティアの活動の場として、また区民との幅広い交流を深める場として活用できる施設。																			
所在地	荒川 2-57-8																			
開設年月	平成9年8月																			
敷地面積等	（敷地）771.64㎡ （延床）1,482.08㎡																			
事業内容	①活動の場の提供 障害のある人やボランティア活動のために、共用活動室、点字ワープロ室、対面朗読室が設置されている。 ②生きがい活動の促進 ③相互交流の促進 ④情報の提供																			
施設内容	ホール、会議室、集団共聴設備、音声誘導設備、点字ワープロ室、喫茶コーナー、交流ロビーなど																			
利用実績	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>12年度</th> <th>13年度</th> <th>14年度</th> <th>15年度</th> <th>16年度</th> <th>17年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>会議室等貸出件数</td> <td>3,560</td> <td>4,095</td> <td>4,786</td> <td>4,375</td> <td>4,786</td> <td>4,678</td> </tr> </tbody> </table>							12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	会議室等貸出件数	3,560	4,095	4,786	4,375	4,786	4,678
	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度														
会議室等貸出件数	3,560	4,095	4,786	4,375	4,786	4,678														

● 障害者通所施設・グループホーム一覧

■障害者通所施設

施設名	対象	所在地	設置主体
心身障害者通所施設（荒川たんぼセンター）	身体・知的障害	荒川1-53-9	荒川区
生活実習所（あらかわ希望の家）	知的障害	西尾久6-17-3	
生活実習所分場（あらかわ希望の家分場）		西尾久4-6-4	
荒川第一あさがお福祉作業所 荒川第二あさがお福祉作業所	身体・知的障害	西尾久6-9-7 （旧小台橋小学校内）	荒川区手をつなぐ親の会
荒川第三あさがお福祉作業所 荒川第四あさがお福祉作業所		西日暮里1-5-8 （旧真土小学校内）	
作業所ボンエルフ		西日暮里1-5-8 （旧真土小学校内）	（社）荒川のぞみの会
マック・リブ作業所	精神障害	南千住6-59-16	NPO法人マック・リブ作業所
ワークハウス荒川		西尾久7-50-6	（社）愛と光の会
ワークハウス荒川第2		西尾久7-50-6	
荒川ひまわり		荒川1-17-3-103	（社）トラムあらかわ
荒川ひまわり第2		荒川6-42-7-101	

■障害者グループホーム

施設名	対象	所在地	設置主体
荒川区立障害者グループホーム	知的障害	西日暮里2-2-6	荒川区
東日暮里かつお寮		東日暮里6-27-12	（社）原町成年寮
東日暮里さんま寮		東日暮里6-32-1	
東日暮里イルカ寮		東日暮里3-24-1	
町屋生活寮		町屋2-7-3	（社）東京都知的障害者育成会
瀬口寮	町屋7-15-9		
東日暮里ハイツ	重度知的障害	東日暮里3-23-3	
ホームとらむ	精神障害	町屋4-21-1	（社）トラムあらかわ
ふるさとホーム荒川第5		西尾久7-50-6	（社）愛と光の会